

学園だより

6

2014 June
Vol.181

I	巻頭言	
	弘前大学長 佐藤 敬	02
II	特集 新学期を迎えて	
	各学部長挨拶	
	人文学部長	04
	教育学部長	05
	医学部長	06
	医学部保健学科長	07
	理工学部長	08
	農学生命科学部長	09
	新入生・在学生の声	
	人文学部	10
	教育学部	12
	医学部医学科	14
	医学部保健学科	16
	理工学部・理工学研究科	18
	農学生命科学部・農学生命科学研究科	20
III	研究室紹介	22
IV	海外だより	28
V	新任教員自己紹介	30
VI	けいじばんコーナー	34
VII	編集後記	34



弘前大学長
佐藤 敬

たくさんの経験を 新入生の皆さんへ

改めて、新入生の皆さんを心から歓迎するとともに、伝統ある弘前大学の歴史を担って下さることになった皆さんに感謝したいとも思っています。

「学園だより」新学期特集号の巻頭で、新入生の皆さんへのメッセージを述べさせていただくのが恒例になりました。新入生の皆さんに伝えるべきことは、年々大きく変わるわけでもありませんので、これまでも折に触れて述べてきたことですが、この場では、最近私自身が最も大切に感じていることをお伝えします。

言うまでもなく、多くの皆さんにとって、学生生活における自由度は高等学校時代に比べて格段に大きくなったことでしょう。勉学においても例外ではありません。高等学校までは学ぶべき指針が明確に示されています。しかし、小・中・高等学校においてさえ、勉学がある一定の範囲に限定されるべきだという考え方は何処にもないものと思います。特に大学における学問は多様であり、多様でなければなりません。大学においても、学生にはシラバスの中で個々の授業の目的や目標が明示されていますが、シラバスはあくまで個々の授業の指針であり、大学における勉学全体を対象としたものでないのは当然です。

皆さんには多様な学びを経験していただきたいと願っています。皆さんは、それぞれの専門を身に付けることを目指して弘前大学に入学したことでしょうから、専門家としての知識や技術などを身に付けることはもちろん不可欠です。しかしながら、それを実社会で活かすためには、もっと幅広い資質が必要となることは間違いありません。例えば、コミュニケーション能力の重要性はよく言われますが、当然のことながら、言葉は一旦発せられると決して元に戻らないことを十分意識する必要があります。同じ内容のことを表現するにしても、言い方はさまざまであって、相手に真意を理解してもらうことや、内容によっては、相手にわだかまりを持たれないようにすることなどの配慮がコミュニケーション能力の中でも大切にされなければなりません。それは、自分の言いたいことをお腹の中にしまい込むことではなく、自己主張をしっかりとするためにも、そのような配慮が必要なのです。

では、このような能力は如何にして磨くべきなのかというこ

とになりますが、以下はそれについての皆さんへのお願いです。

まず、長い人生の中で、誰でも数多くの失敗を経験しています。そのことも広い意味での学習の機会です。多くの人々と交わって、多様な経験することは不可欠です。大学では、学生同士の交流の機会がたくさんありますので、活発な学生生活を送って欲しいと思います。また、さまざまな課外活動を通して、多様な経験を積むことや、社会人をはじめ、学友以外の人々と交わることも貴重です。皆さんはまだ大きな可能性を持っていますので、失敗を恐れず、例えば失敗があったとしても、それを今後の糧とするためにも、多様な経験を積極的に求めて欲しいと思います。

大学生としての勉学についても、同じことが言えます。上にも述べたように、皆さんはそれぞれの専門に関する勉学に最も興味を持っているのではないかと想像します。もちろん、それは大事なことです。ただそれだけでは十分とは言えません。特に1年次には教養教育科目を中心に受講することになるでしょうが、皆さんには、教養教育の重要性を強く認識していただきたいと切に願っています。もちろん、教養教育が短期間で完成するはずもなく、教養を磨く努力は生涯続けなければならないことですが、大学における教養教育を一つの指針として、生涯にわたる努力のために活かすことが大切です。

弘前大学の特徴の一つは、北日本における総合大学という点にあります。したがって、学内には多様な教育研究活動に携わっている教員が多数在籍しています。皆さんは、大学のカリキュラムに従ってしっかり勉学を進めるのはもちろんのこと、教育研究にかかわるさまざまな活動に積極的に参加することで、本学の特徴である多様な学問領域に接する機会を数多く持つよう勧めます。ともすれば、最初に出会った物事が新鮮で強烈な印象を残すことがあるかもしれません。その新鮮な感動を大切にしながらも、いつまでもそれだけにとどまっていたら、進歩はありません。自らの力を尽くして、そしてさまざまな支援や学内資源を活用しながら、そこから、さらに学問を拡大し深化させていくことが重要です。勉学を進めるにあたって、講義や実習にベースを合わせることは必ずしも重要ではありません。自らの努力で、自らの歩

みにしたがって、どんどん進んでいくように願っています。

大学の調査によると、弘前大学生の自主的勉強時間はきわめて少ないとの結果が出ており、また、生協の調査結果では、弘前大学生はあまり本を読まない人が多いようでもあります。これらの結果から直ぐに、「弘前大学生は遊んでばかりいる」と言うことはできないと思います。机に向かうことや、本を読むことばかりが勉強の方法ではありませんが、やはりできれば一日一度は机に向かって欲しいと思います。部活で疲れている日は10分で終わっても良いでしょう。20歳を過ぎたら、時には友達と痛飲して机に向かわない日があっても良いと思います。十分な努力を継続できないことで自らに失望したりせず、そのことを従容として受け入れ、その代わり、時には1時間でも2時間でも続けられる日が必ずあるはずですよ。もう一つ、机に向かって何をやるか？それだけは、早く確立することが必要です。宿題があれば、容易かもしれませんが、大学では必ずしも宿題は多くありません。取り敢えずは、大学の授業に沿った勉強からスタートしても良いのではないのでしょうか。

そして、本は読まなければなりません。実は本を読む時、私たちの頭の中では単に文章を理解すること以上の複雑な知的活動が進行しているのです。脳の中の複雑な回路の中を神経シグナルが縦横無尽に巡って、回路の複雑性をさらに高め、しっかりとした多様な思考経路を確立していくのです。神経回路の多様性、それに基づく思考経路の多様性は、将来皆さんが社会に出て、さまざまな課題に取り組み思考する際に、間違いなく威力を発揮します。取り敢えずは、何年かの後に、就職活動の中でクリアすべき面接にも首尾よく対応するための力にもなるでしょう。

繰り返しますが、机に向かうことや本を読むことは大切ですが、それだけが勉強ではありません。課外活動や友人との交流を通して学ぶこともたくさんあるのは間違いなく、楽しみながら学ぶことのできるというのは、大学生の特権だとも言えます。皆さんが学生生活を楽しみながら、時には自らの大きな努力を傾注して多様な経験を積み、そこから多くのことを学んで、将来の日本社会のリーダーとして成長して下さるよう心から期待して止みません。



人文学部

過去から学び、未来を見すえ、
現在（いま）を生きる
— 新入生の皆さんへ 2014 —

人文学部長 今井 正浩



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。人文学部長の今井と申します。専門は西洋古典学（ヨーロッパの文化的源流にあたる西洋古典古代の原典を研究する学問）です。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

弘前大学人文学部は、人文・社会科学の融合学部として、人文科学・社会科学系の学問を志望する学生諸君、海外からの数多くの留学生諸氏に対して、当該分野の学習・研究の場を提供してきました。その前身は、大正9年（1920年）に創立され、若き日の太宰治（＝津島修治）も学んだ官立弘前高等学校であります。旧制・弘前高等学校の在学時に、津島修治が受講した講義の自筆のノート類が、数年前、弘前大学附属図書館に寄贈されました。そこからは、人文学部にかぎらず、弘前大学が今日までになってきた学問的伝統の重みを実感することができます。かれの遺した講義ノート類に関しては、その復刻版が弘前大学出版会より刊行されていますので、一度手にとってみてはいかがでしょうか。弘前大学資料館には、弘前大学に関係のある貴重な資料類が数多く展示されています。ぜひ足を運んでいただきたいものです。

伝統の重みなどという、懐古趣味のような印象を与えるかもしれません。新入生の皆さんのように、自分自身の将来に対して夢と希望に大きく胸をふくらませている若い人たちにとっては、なおさら、そのように感じられるかもしれません。けれども、人生の節目において過去をふりかえることをとおして、皆さん一人一人がどれほど多くのものを人生の先輩たちから受けついでいるかをきちんと理解することは、皆さんが自分自身の未来を着実なかたちで見すえるためにも、とても重要なことであると思います。それは、学業生活に関しても同じことです。弘前大学における皆さんの学業生活が多くの

先人たちによって積み上げられた学問的伝統の上に成り立っているということをいつも自覚しながら、現在（いま）を生きる一少なくとも、そのように生きようと努力する—ことは、皆さん自身の現在の立ち位置をはっきりさせるのに、大いに役立ちます。それはまた、皆さん一人一人の夢を夢にとどめるのではなく、希望をたんに希望のままに終わらせることなく、確実に未来を志向するうえで必要なことであります。

わたくしは、1996年4月に弘前大学に教員として赴任してきました。弘前という都市は、古き良き伝統と新時代のトレンドが調和した、静かで落ち着いた街であるという印象を、この地で年齢を重ねるごとに強くしています。新入生の皆さんのなかには、郷里を遠く離れて、単身、大学生として、この地で新しい生活を始めるという人もいるでしょう。一方で、この北国の地に生まれ育ち、地元の大学である弘前大学に進学したという人もいます。大学生として、この地で新しい生活を始める人には、弘前という街が学業を中心とした生活に最適の環境を提供してくれることをお約束します。地元出身の人には、弘前という都市空間が、学業を中心とした生活をおくるうえで理想的ともいえるような学習環境を形成しているということを再確認してほしいものです。

弘前大学において、皆さんが充実した大学生活を送られることを心から願っております。



教育学部

「プレイスタイル」の確立

教育学部長 戸塚 学



新入生の皆さん、大学生活のリズムが身につき、そろそろ自分のペースで学生生活を送れている頃でしょうか。弘前市以外の地域から入学した皆さんは、日本一と謳われる弘前の満開のさくらを観てどう思われましたか。ここが、君たちの大学生活のホームです。

教育学部には、1年生から4年生まで、志を同じにする約1,000名の学生が学んでいます。学校・生涯教育に関連する文系理系・芸体系15の学問分野から成り立つ、いわばミニ総合大学であり、約90名の教員が皆さんの学習や研究の指導・サポートにあたっています。皆さんが廊下を歩いていると、実験器具で埋められた部屋、英語でしか会話がされていない部屋、歌声や楽器の音が聞こえてくる部屋、どこかのアトリエのような部屋、そして白いベッドがたくさん置いてある部屋など、様々な光景が目飛び込んで来るかと思えます。これが教育学部です。

教育学部の強みと特色は、まさに学部の中に沢山の学問領域が同居すること。そしてそれぞれの専門性を認めながら、教育プロフェッショナルの養成という一つの目標に向かって自分の「専門の力」と「実践的指導能力」を築き上げることができる点です。私は、教育とは如何にサポートをして人の「自立」を導くかだと考えます。そして、個人個人はみな違う個性や能力をもっています。その一人ひとりの個性や能力を大事にし、みんなが自分の能力を最大限に発揮できる環境を整えるのも教育の役割だと考えます。これから学校の教員または地域のリーダーになる皆さんには、多様な人の潜在能力の向上を如何に促すかが使命となります。教育学部には、「多様性の受容」の重要性を理解できる人材養成の環境が整っています。

さて、皆さんはこの冬、ソチオリンピックをご覧になったかと思えます。私の専門は運動学です。わかりやすく言うとスポーツ科学の一領域といえます。スポーツ科学は、オリンピック代表選手をはじめアスリートを科学的側面からサポートする研究分野です。私は、自分の専門分野の性格上、オリンピックでのアスリートのパフォーマンスを、どうしても体力や技能の優劣で見えてしまいがちです。皆さんも選手のダイナミックな動きや、スピード感溢れるパフォーマンス、そしてその結果示されるタイムや得点に魅了されたことと思えます。誰もが金メダルを狙って全力を尽くしますが、タイムや得点は選手にとっては一つの結果です。本当の戦いは自分との闘いだと考えます。皆さんは「オリンピックには魔物がいる」という言葉を聞いたことがあると思えます。勿論、競技会場には襲い来る生き物はいません。オリンピックという舞台での戦いは、体力・技能はもとより、その選手の競技に向かう姿勢、プレイスタイル、そしてそれまでの人生で築き上げた生き方、すなわちその選手の哲学の表れであると考えます。

大学の4年間は、自分の生き方について考える重要な時期です。自分という人間の哲学の構築、それは自分としての生き方の確立と言えるでしょう。しかし、その哲学を構築するには、何回も自分を乗り越えなければならない。時には乗り越えるのに長い年月と不断的努力が必要になるかもしれない。しかし、それでも自分の中の魔物に負けず、諦めない「タフな心」で自分なりのプレイスタイル、すなわち哲学を導きだしてください。期待しています。



医学部

青森県の健康課題：“短命”に 学生の視線を

医学部長 中路 重之



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。希望に胸を膨らませて弘前大学の門をくぐられたことでしょう。

私は、医学科の社会医学講座に所属し、予防医学・公衆衛生を担当しています。

青森県出身の皆さんはすでにご承知でしょうが、青森県には以下のような大きな課題があります。県外の皆さんもぜひ知っておいてください。

- ①青森県の平均寿命は男女とも日本一短い。
- ②最長寿の長野県（青森県より約2.5歳長寿）と比較し、全年代の死亡率が高い。しかも、中年代（40、50代）の死亡率が高く、とくに男性では長野県の1.5倍以上である。
- ③長野県と比較し、主要な死因（がん、心臓病、脳卒中、自殺、これらの死因で現在日本人の80%が死亡）の死亡率が高い。

その短命の理由はある程度分かっています。

- ①生活習慣が悪い（喫煙率が高い、多量飲酒者が多い、肥満者が多い、運動不足、食塩摂取量が多い）。
 - ②健（検）診の受診率が低い。
 - ③病院受診が遅く、通院状況が悪い。
- などです。

寿命や健康に一見関係がなさそうに思える医学部以外のみなさんにも、私が平均寿命のお話をするには理由があります。それは、平均寿命が、保健や医療に限らず、その裾野がすべての分野に関わっているからです。経済、文化、教育、気候、健康知識・意識などなど、平均寿命は、我々を取り巻く諸要因の総合力であるとさえ言えます。したがって、その全容を明らかにすることは容

易ではなく、それゆえ、実効性のある対策をとることも容易ではありません。

青森県に存在する弘前大学は、この県に対して宿命的に大きな役割を担っています。短命の分析に始まり、その対策の提言、そしてその協力実施に至るまでです。「世界に発信し、地域と共に創造する弘前大学」という弘前大学のスローガンには、まさにその精神が包含されています。弘前大学に入学した皆さんにも、是非このことに関心を持ち、勉強していただきたいと思います。

今、日本では、科学はもとより、政治、経済などあらゆる分野の有為な人材の減少と質の劣化が指摘されています。その責任母体のひとつに大学が挙げられています。

学問や勉学の充実は、その先に“実際の人間”を意識できるか否かにかかっていると思います。人の“存在”や“悲しさ”や“優しさ”さらにはその“業”などを肌で感じるのが、モチベーションを育て、向上心に火を付けるはずで、弘前大学での学生時代に、皆さん独自の目線でこの“青森県の短命”を意識していただければと思います。



医学部保健学科



新入学生さんへ

医学部保健学科長 木田 和幸

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんはそれぞれ異なった状況にありながら、いくつかのハードルを乗り越えて、入学することになりました。これらは皆さんの努力の結果・証と想像しております。一方、ここに至るまでには、ご両親、兄弟、友人、先生や関係者から多くの支援を受けたことも改めて思い出すことと思います。これからは新たな出発として、更なる目標に向かって前進することになります。

保健学科の学生は、入学した、正確には志願した段階で目指す医療専門職を決めているため、一本道をひたすら前進することになります。その点での迷いは少ないものと想像しております。しかし、ここは大学であり、皆さんはその学生となることを今一度考えてみて下さい。学生とは辞書によると「自ら学ぶ」というように積極的な姿勢・態度が求められております。また、最終的には学士号を取得することになりますので、その学位に相応しい幅広い教養と深い専門性を身につけることが求められます。大学での授業等では学問としての幅広さと深さを得るための機会に遭遇すると思いますが、学生の皆さん一人一人が個人的に知りたい、理解したいという欲求を十分に満足させるには、自ら調べ探求することも必要になります。自分の知らない世界を探求することは、次々に迫る経験のない刺激を受けることとなり、学生としての皆さんにとっては、この上ない心地よさを感じるに違いありません。この心地よさを是非ともこの弘前大学での学生生活を過ごす中で感じ取って頂くことを切望致します。学生生活の期間は4年間です。皆さんにとって長くはありません。一方、学生生活で行うことは学問だけではなく、部活動、町内会活動、ボランティア活動などいろいろな範囲や場面での活動があります

が、これらへの積極的な参加は、いろいろな角度からいろいろな刺激を自分に与えることになります。学生生活におけるあらゆる活動を通して、いつしか自分でも気づかなかった新たな自分の才能や能力が湧き出てくることに繋がる可能性があります。限られた学生生活を刺激的に過ごすかどうかは、今この時点で自らが自分と約束をして決めることです。少しだけ自分に厳しい約束をしては如何でしょうか。

弘前は四季を通して、弘前さくらまつり、弘前ねぶたまつり、弘前城菊と紅葉まつり、弘前城雪灯籠まつりが開催され、岩木山を背にゆったりとした時の流れを感じさせるところです。その周辺の多くの人々は弘前大学の「学生さん」を見つめており、「学生さん」とのつきあいを熟知している方ばかりです。このような状況の中に存在する弘前大学で充実した学生生活を送り、少しでも新しい自分を発見してみても如何でしょうか。

保健学科は、保健医療の一端を担いながら社会で活躍し、社会に貢献しようとする皆さんの入学を心から歓迎いたします。



理工学部

新入生のみなさんへ ～ワイングラスの中の世界～

理工学部長 宮永 崇史



皆さん、弘前大学理工学部にご入学おめでとうございます。私は皆さんの元気な姿とお会いできるのを心待ちにしておりました。今、皆さんは大なる希望と多少の不安を胸に、弘前大学のキャンパスに立っているのではないのでしょうか。皆さんを見ていますと、私も35年前の自分の姿を思い出します。

私はとある城下町にある大学の工学系化学科に入学しました。その後工学系物理学、理学系化学、理学系物理学と進んできました。このように個々の場面でいろいろな転身を行い、その都度それなりに悩んできたわけですが、学生時代に出会った一つの本が私を支えてくれました。それは「ファインマン物理学」という物理学の教科書です。1961年から2年間にわたり、ノーベル賞受賞者のR.P.ファインマン教授がカリフォルニア工科大学の1年生のために全精力を傾けた講義の内容を同僚や関係者がそのまま教科書にまとめたものです。この本は当時から世界中の大学で教科書として使われ、出版から50年以上を経過した今でも売れ続けるという伝説の教科書です。「物理学」は理工学部で学ぶ多くの人にとっては重要な基礎科目ですので、皆さんもぜひ一度この本を手にとって中をのぞいてみてください。物理学の教科書でありながら、その中に次のような1節があります：

かつて「一杯のワインの中には全宇宙がある」といった詩人がいた。詩人というものは正確に物事を表現するわけではないので、これが本当に意味するところは不明だ。だが、現にワインの注がれたグラスをじっくり観察するとその中に全宇宙が存在することも事実である。一杯のワインの中には物理的に多くのことが存在する。例えば、グラスをゆすると風や天候の

影響を受けつつワインは蒸発してゆく。グラスの中には反射光があり、そして原子が存在する。ガラスは地球の岩石が原料であり、その成分から宇宙の年齢や星の進化を知ることができる。ワインの中にはどんな化学物質があるのだろうか？（中略）

クラレット（ボルドー赤ワインのひとつ）のなんと生き生きとしたことよ！それは、私を魅了する。ちっぽけな人間が、この一杯のワイン、すなわちこの宇宙を、自分たちの都合で物理学、化学、生物学、地学、天文学、心理学などの学問分野に分けたとしても、自然はそんなことは関知しない。だから、このワイン（宇宙）が何のためにあるかに思いを馳せ、これまでの分類なんかはすべてご破算にしてしまおう。（下線は筆者による）

面白いことに、寺田寅彦という日本の物理学者の随筆の中にも「茶碗の湯」という同様の話があります。彼は身の回りの物理現象に興味を持ち続け、後年は防災教育についても警鐘をならしています。新しい科学的知識はどんどん増え、学問は細分化され、総合大学といえども多くのことを学ぶことはなかなか難しい時代になってきました。しかし、ぜひ皆さんは身の回りの科学現象を含めたいろいろなことに興味を持ち、自分の学科の専門分野を幹としつつも、その周辺の学問を枝葉として大きく茂らせるように学習してみてください。そうすることによって将来はさらに幅広い人間に成長してゆくでしょう。

そして2年後、成熟した皆さんが二十歳を迎えた日に、ともにワインで乾杯しましょう！



農学生命科学部

新入生への期待

農学生命科学部長 佐々木長市



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。日本一の桜とりんごの町弘前に皆さんを受け入れることが出来て感謝しています。弘前は城下町として栄え、文化の薫りただよふ落ち着いた街で、学びの環境に恵まれたところです。入学に際し、皆さんへの三つの期待を述べたいと思います。

一つ目は、大きな夢を持ってほしいと言うことです。入学時には、皆さんなりの夢を持って入学されたと思います。入学後の大学生活は、高等学校と異なりかなり自由に物事が決められます。一人暮らしを始めた人もいます。レポート提出などの期日に追われ、部活に夢中になり、あっという間に4年あるいは6年が過ぎます。卒業時の学生の感想などを読むと、あっという間でしたという言葉がかなりの比率を占めております。入学時の夢あるいは初心を忘れず、目的を定めて邁進してほしいと思います。そのためには、友人、知人そして教員等とコミュニケーションを取り、どうしたら夢に近づけるか主体的に考え取り組んでほしいと思います。また、夢を決めかねている人、何となく入学した人も、この4年間あるいは6年間をかけて一生取り組めるような夢を見つけ出してくれることを期待しています。

二つ目は弘前の良さを語れるようになってほしいということです。昨年も入学生への期待で述べましたが、皆さんは、弘前で感性豊かな青春時代を過ごすこととなります。弘前市は、何処でも名峰岩木山がみえ、かつりんごの木の四季の変化を知ることができるのどかな場所です。弘前市の西には、昔は「弘西山地」と言われておりましたが、今は「白神山地」と言う、ブナの原生的な林とその生態系が人類普遍の価値を持つ遺産として認められた「世界自然遺産白神山地」があります。学部付属の藤崎農場は世界で最も生産されているリンゴ「ふじ」の発祥の地です。同じく金木農場は、文豪 太宰治の生ま

れた場所（旧金木町）にあり、「津軽」という小説に出てくる場所です。両農場では、農場実習も行います。関東方面から来た学生は、梅雨や夏の過ごしやすさに驚くでしょう。また、青森県は、周囲に日本海から太平洋までをもつ日本唯一の県であり、海の幸にも山の幸にも恵まれたところです。こうした良さを言葉で語るのなかなか難しいかもしれませんが、将来の就職時の面接や自己アピールの良い材料になります。1年目は特に、環境の違いを敏感に感じとれる時期ですので大切に過ごしてください。

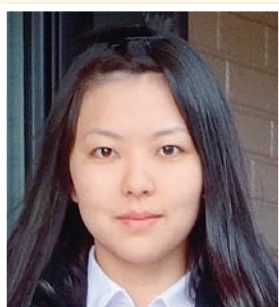
三つ目は、グローバルな視点をもった教養豊かな人材となれるよう努力してほしいと言うことです。若い人の海外志向が減少し、人口減少社会のなかで、世界と付き合い合っていくことが日本の将来のためにますます重要だと考えられています。人口減少社会のなかで、収入を増やすためにはどうしても、海外との貿易や相互理解が必要になります。大学には、多くの留学生がきております。部活でも留学生と知り合いになれるチャンスがあります。積極的に、コミュニケーションをとり、知らない国の食生活や習慣等を知ることが、自ずと自らの文化を意識させられることでしょう。海外に勤務し、外国人からいろいろ日本の文化などについて聞かれ、改めて日本の文化を知る必要を痛感したという人の話なども時々聞きます。こうした違いを認識するあるいは知るためには、深い教養が必要となると考えられます。日本、あるいは上述した弘前について知ることあるいは語れることは、グローバル化の時代を生きる皆さんには必要不可欠です。

最後になりますが、弘前大学での学習の機会を与えてくれた両親と関係者に感謝を忘れないで充実した学生生活を送ってほしいと祈念しております。



佐藤 なつき

人文学部人間文化課程 1年



新しい自分

私は生まれてから18年弘前で過ごし、大学は県外に出たいと考えていましたが、第一志望の大学に落ち、地元の弘前大学に進学しました。入学以前はまたこの町で過ごすのかと浮き浮き感が薄かったのを覚えています。しかし大学に入学して私の考えは大きく変わりました。住み慣れたはずの弘前が魅力いっぱいに見えたのです。それは他県出身の友達に弘前を知ってほしい、好きになってほしいと思い始めたのがきっかけでした。今では弘前に残れて本当によかったと思います。

高校までは与えられたものをこなすというスタイルに慣れきっていたので、大学の「自由」なスタイルとのギャップに戸惑いがありました。時間の使い方がわからず、4月は無駄に過ごしてしまったと思います。高校の先輩の「自分で決めた忙しさは最高に幸せだ」という言葉を聞いてから私のキャンパスライフに対する見方が変わりました。大学生活は「社会人への準備期間」、反対に「人生の夏休み」です。私は公務員志望ですが、公務員になるのが難しいことは百も承知です。今できることを積み重ね、輝く将来に少しずつ近づきたいです。また学生である今しかできないことを見つけて充実した時間を過ごしたいと思います。

清野 由人

人文学部現代社会課程 1年



新入生の声

私は4月8日の入学式から現在に至るまで弘大について感じてきた様々なことを書こうと思います。まず、弘前に引っ越してきて最初に弘大の構内を歩いてみたときに印象的だったのは先輩方が皆楽しそうに活動していたことでした。すれ違う人すれ違う人が皆笑顔で、ジャグリングをしている人がいたり、友達と楽しそうに話をしている人がいたり、大学生生活を楽しんでいるんだなあということが一目見てわかるような素敵な先輩方でした。そして私も遂に大学生生活をスタートさせるのだなとそこで再実感しました。

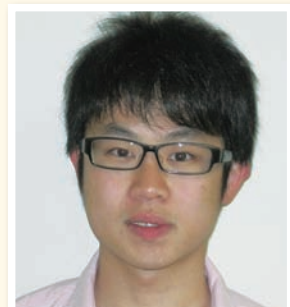
また、弘大は新入生のための企画がたくさんあり、そこは弘大がもっと自慢していいことだなと感じました。それぐらい私も参加して為になった企画があったし、そこで友達を作ることもできました。だから来年の新入生も積極的にそういった企画に参加してほしいなと思いました。

それと少し弘大には関係なくなっていますが、弘前公園の桜が想像していたよりも綺麗で感動してしまったので来年からは大学の友達だけでなく、地元の友達や違う地域に進学した友達も弘前に招待して一緒に花見を楽しめたらいいなと思いました。

せっかく頑張って弘前大学に進学したのでこの四年間を精一杯楽しんで、かつ精一杯学んでいきたいと思っています。

小笠原周哉

人文学部経済経営課程 1年



新天地での生活

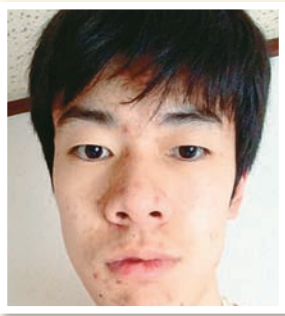
生まれてから高校卒業まで北海道で過ごしてきました。だから青森はお隣さんという認識でした。でもそれはあくまで地理的なものだけにすぎないと大学に入学して痛感しました。

まず、当たり前ですが方言が全然違います。北海道では普通に通じる言葉が青森では全く理解してもらえなったりするのはちっとも珍しいことではありません。僕はそれで悲しくなりましたが（笑）個人的な感想はさておき、弘大はいろんな県から人が来るのでそれだけ多くの方言が会話で飛び交います。これは総合大学ならではのようです。

この大学は他学部の人との交流も盛んなので友達もたくさんできます。充実した大学生活を送っていきたいです。

野原 晃弥

人文学部経済経営課程 3年



新入生のみなさんへ

弘前大学の新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。入学から数ヶ月が経ち、大学生活や一人暮らしには慣れてきたころでしょうか？

ぼくは現在、大学3年生ですが、これまでの大学生活を振り返ると、あっという間に過ぎてしまったという印象があります。大学生になると、自由に使える時間がすごく多くなるので、勉強やアルバイト、サークル、ボランティアなど、自分のために時間を費やすことができるようになります。僕は3年になった今、1年生のころからしっかり計画的に勉強しておけば良かったと後悔しています。なので、みなさんは1年生のうちから自分のやりたいことを見つけて積極的に行動してみてください。僕は大学に入ってから、1年間に一つは資格を取りたいという思いからWordやExcelの資格を取るなど目標を立てて頑張っています。

大学生は、人生の中で一番時間のある時期だと言われていますが、この大学4年間の時間を有効に使い、両親にも感謝しながら、おそらく1度しかない大学生活を充実して過ごしてください。

金崎 諒

人文学部現代社会課程 3年



大学でやりたいこと

一年生のみなさん、弘前大学へようこそ！

大学生活の四年間で、特別にやってみたいと思うことについて考えてみましたか？大学生は高校の頃のように教科書を暗記して問題を解いていく能力ではなく、自ら課題を見つけて答えを模索する思考力が求められます。そしてテーマ一つとして、大学時代に実現したいことを考えてみるのが大事だと、一年生の頃に先生から言われました。海外留学でも日本一周旅行でも何でもいい。そして、特にいままで未経験のことを恐れずにチャレンジしてみることに、その目標を実現させるための資格やお金を計画的に備えておくのと良いと思います。大学生は時間があるとよく言われますが、漫然とすごしていたらあっという間に時が経ってしまいます。参考にできるかもしれませんが、ぼく自身の計画の一つとして、大学で身につけてきた語学力を伸ばすために短期留学しようと考えています。

みなさんがそれぞれやりたいことに一生懸命になれば、充実した大学生活が送れるはず。そしてきっと素敵な出会いも待っていると思います。それでは、わくわくする大学生活をともに楽しんでいこうね！

北島 愛果

人文学部人間文化課程 4年



大学生活の楽しみかた

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活に慣れてきましたか？

大学生活を彩るものといえば、部活やサークル、バイト、勉強と色々なことが挙げられます。なにに打ち込むかは自由です。自由に時間を使い、なおかつ若く健康な体を持っている大学生のうちに、したいことをするべきです。

しかし、したいことをやりすぎて留年したり、将来をかえりみない行いをしすぎては、大学に進学した意味がなくなってしまうと思います。

現在4年生の私が1年生のときにやっておいてよかったと思ったのは、授業を多めに受け、単位を早めに取得したこと。そのおかげで3年生あたりから、自分のしたいことに時間を取れるようになりました。

1・2年生の頃は、大学生活の基盤（部活、バイトなど）を固めるのに重要な時期だと思います。一年生の始めはあらゆる面において選択の連続です。その選択の結果が出るのには、時間がかかります。たとえ間違った選択をしても、2年生までに挽回できるはず。1・2年生の頃は、大学生活の基盤（部活、バイトなど）を固めるのに重要な時期だと思います。一年生の始めはあらゆる面において選択の連続です。その選択の結果が出るのには、時間がかかります。たとえ間違った選択をしても、2年生までに挽回できるはずです。

一生に一度になるだろう大学生活をどれだけ楽しめるかは、自分の選択次第です。失敗しても立て直せばいい。みなさんが後悔のない、楽しい大学生活を送れますように。



高橋宏太郎

教育学部学校教育教員養成課程 1年



新しい世界

弘前、豊かな自然に囲まれた美しい町で私の大学生活が始まりました。初めての土地で一人暮らし、大学の授業、人付き合い…様々な不安を抱えていましたが、入学してから次第に慣れてきたという感じです。

私は教育学部学校教育教員養成課程に入学しました。専修は家庭科で、一年生の中ではただ一人の男性です。今まで経験したことのない環境で、最初は仲間とうまくやっていけるか不安でしたがすぐに打ち解けて新歓コンパやお花見などで交流を深めることができました。

大学卒業後の目標は故郷の群馬県で教師になることです。これからも初めてのことで大変になりそうですが、苦しいことでも一つ一つ乗り越えて自分の力にしていきたいと思っています。また、家庭科の学習を通して、社会や家庭環境の変化が激しい現代で教師としてどんな心構えを持って子どもと向き合うべきか、自分が親となって家庭を持ったときどのように振る舞って生きていくのかということも考えていきたいと思っています。

泉 優希

教育学部学校教育教員養成課程 1年



何気ない幸せ

弘前の桜も満喫し、入学から早くも一か月が過ぎました。国語教師を目指してこの大学に来た私ですが、ここが自分の理想とする教師像を追求するために最適の場所であることをはっきりと実感しています。

近年、情報化の加速に伴い、常に周りに同調し忙しくなく生き、移ろいやすい不安定なものから幸せを感じている人が増えているように思えます。そんな現状に私は違和感を抱き、もっと根源的で普遍的な幸せに目を向け、心のゆとりを持つことの大切さを教えられる教師を目指しています。

弘前は都会に比べ目立った商業施設の数はいませんが、そのぶん「人の温かさ」や弘前公園を代表とする「美しい自然」など、俗なものとは異なった身近で揺らぐことのない幸せに目を向ける余裕が生まれ、与えられるだけでなく自分で喜びや大切なものを見つけ出す力がつくと思います。そしてそのような能動的な姿勢は大学生の本業である学問においてよくいわれる主体的に物事に取り組む力の向上にも繋がるでしょう。

この学問、そして自然、人に恵まれた環境に感謝し、いつもそばにある何気ない幸せを感じ、初心を忘れず日々邁進していく所存です。

渡辺由里香

教育学部学校教育教員養成課程 1年

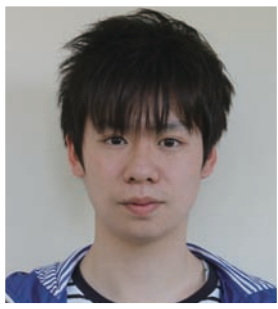


今を大切に

弘前大学に入学してから早くもひと月が経ち、やっと大学生活にも慣れてきました。様々な目標を持った人々に出会い、自分が大学生になったことを自覚させられます。私がこの1か月で感じたことは、大学はこれまでの学校生活とは異なり、自分の興味関心がある分野を学べる自由さがある反面、公私ともに自己管理が重要になるということです。そして、そのあり方次第でこの大学生活がただの4年間になるか、有意義な4年間になるかが決まってくるのだと思います。しかし、頭では分かっているにもかかわらず実際にそのように行動することは簡単ではありません。人間は時間があると思うほど体が重くなる不思議な生き物です。だからこそ、大変な時や辛い時、怠けたい時は、美術専修の仲間や先輩方、同じ目標をもって努力している友人を励みにし、良い大学生活を自ら創り上げていきたいと思っています。また、故郷にいる友達や家族を思い出し、今ここで学んでいることが当たり前でないことを自覚し、夢に向かって日々精進していきたいと思っています。

仙台 直哉

教育学部学校教育教員養成課程4年



時間を大切に

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活にも慣れてきたころでしょうか。私は入学してから早くも4年目となりました。

大学4年間はあっという間に過ぎてしまいます。そこで私が伝えたいことは、「時間を大切にしてください」ということです。大学は夏休み、春休み、空きコマなど、高校の頃に比べて自由な時間がたくさんあります。

その時間を勉学に充てるのもいいですが、それだけではなく様々なことに挑戦し、多くの人と関わって下さい。

ボランティア活動やサークル、アルバイトなどを通して多くの人と関わることで、これまで自分にはなかった新しい考え方や知識を得ることができます。またそうすることで、コミュニケーション能力の向上にもつながります。そしてその経験と出会いが自分のこれからの財産になると思います。

色々な可能性を秘めている大学生生活、自分にとって有意義なものとなるように時間を大切にしてください。

須藤 育美

教育学部学校教育教員養成課程3年



今を大切に

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。知り合いも増え、そろそろ大学生活にも慣れてきた頃でしょうか。

ところでみなさんは、入学してから今日まで時間の流れをどのように感じましたか。今は「まだ1年生」と思っている、4年間の大学生活はあっという間です。私も気付けば大学生活3年目です。学年が上がるにつれ、やらなければいけないことが増え、今になって「あの時もっと時間を有効に使えていれば…」と思うことがたくさんあります。「後でやろう」そう思っていたら、1日が過ぎ、1ヶ月が過ぎ…1年なんてあっという間に過ぎてしまいます。だからこそ、みなさんに伝えたいのです。目的・目標をしっかりと持って、この4年間という時間を有効に使って下さい。そして多くのことに挑戦してください。「大学生は自由に遊んで過ごせる」と思っていないませんか。大学は社会に出るための重要な準備期間です。この時に積極的に学び、経験を積むことで将来の自分の姿が変わってくるでしょう。

この大学生活、無駄にしている時間はありません。今という時を大切に、ぜひ有意義な大学生活を送って下さい。

舘山 彩良

教育学部生涯教育課程3年



自分の生活を楽しんでほしい

新入生みなさん、入学おめでとうございます。大学生活にはもう慣れましたか？

まだ慣れてなくて困ることもあるとは思いますが、それは「自分で決めなくてはならないこと」が増えたからで、裏を返せば「自分で決めていること」が増えたということでもあります。大学生活では専門的な授業、自動車学校、バイトなど、悩んだり苦労したりすることもあります。それらを調節すればサークル活動や旅行など、自分が好きなことも自分のペースで楽しめます。

失敗することを怖がらなくても大丈夫です。代わりにやってくれる人はいなくても、助けてくれる人はたくさんいます。失敗は経験値にすれば無駄ではないし、授業や一人暮らしが上手くいかないときは友人や先輩、先生に相談して、周りの助けを借りてもいいんです。自分に合った生活の仕方を見つけて、やりたいことに挑戦して、大学を楽しんでください。



中村 優希

医学部医学科 1年



入学してから早一ヶ月。一人暮らしはもちろんのこと、知り合いが誰もいない環境でこれから始まる新生活は不安で、心細い思いもありましたが、先生方、先輩方の温かい歓迎のおかげで充実した日々を送っています。

4月は歓迎パーティーや合宿、お花見や病院見学などのイベントで同級生とかかわり、有意義な時間を共有することができました。私は医学部陸上部に入部しましたが、優しく頼もしい先輩方との練習も、楽しくて仕方ありません。今、最も印象に残っていることは臨床医学入門という授業で行った、理想の医師像を語るスピーチです。一人一人に背負う過去があり、胸に秘める覚悟や譲れない想いがある、みな今ここにいるのだということを知ることができました。これから医学生として歩む6年間を、彼らと支え合い、成長していけることが幸せだと感じています。

自分にはないものをたくさん持っている素晴らしい仲間たちや尊敬できる先輩たちとの出会いは刺激的で、自分が今まで小さな世界で生きていたことを度々、感じています。まだ授業も始まったばかりで、大学生という響きも慣れないですが、志を高く持ち、つねに新しい挑戦をすることや新たな世界に飛び込む勇気を大切に過ごしていきたいと強く思います。

笠井 星良

医学部医学科 1年

弘前大学に入学して

弘前大学に入学して一か月がたちました。新たに弘前大学の一員となったことについて、思うところを簡単に記したいと思います。

私は県外出身なのですが、弘前に来て最初に思ったことは、弘前がとても過ごしやすい街だということです。規模こそ大きくはありませんが、飲食店やスーパー、市役所といった、生活を送るうえで必要なものが一通り揃っており、まさに学生のための街という印象を受けました。また、弘前の桜は圧巻の一言です。テレビや雑誌などで何回か目にしたことはあったのですが、実際に生で見ると私の想像より遥かにきれいでした。そして、何より弘前大学の学生は仲が良いです。同級生同士はもちろんのこと、先輩後輩の間の距離が近く、何でも気兼ねなく話せる環境が整っているように思います。まだ入学してから間もない私ですが、弘前大学に合格できて良かったと改めて感じています。

さて、私を含めた新入生の皆さんは色々な経緯を経てここにいます。個人的には大学に合格した今がスタート地点だと考えています。6年間で、同じ目標に向かって切磋琢磨できる関係を皆さんと築けていけたらと思います。

岩間 海仁

医学部医学科 1年

計 画

『よく学び、よく遊べ』と度々耳にします。学ぶだけでは養うことができない人間性を『遊び』を通し身に付ける、ということだと自分は解釈しています。私が目指している職業には知識・技術と同等に人間性が求められます。折角の大学という恵まれた環境、十分に活用していくつもりです。

私の夢は医師になること、更には言えば、医師として県内の医療格差改善・医療向上に努めることです。その地域のことはその地域で学ぶことが一番。しかし、内にとどまっているだけではレベルを上げることは出来ません。県外、海外から学び、またこちらからも発信する、そして地域に応用していく活動が必要不可欠です。弘前大学にはそれが可能な環境が整っています。十分に利用していくつもりです。

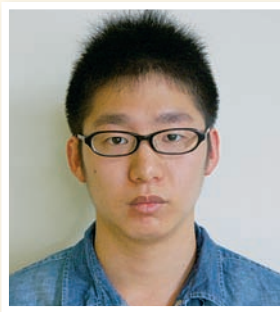
弘前大学入学。ようやくスタートラインまで来ました。大学生活は毎日が新しい経験の繰り返しで、期待と同時に不安もよぎります。自分の夢への一歩と考えるとやる気が湧いてきます。しかし、その一歩には今までとは比べものにならない程の責任がのしかかります。これが自立していくプロセスなのかと実感しています。6年間、苦しみそして楽しみ成長していきたいです。

浅田萌々子
医学部医学科2年

弘前のすゝめ

新入生のみなさん、弘前大学へのご入学おめでとうございます。大学生活には慣れましたか？みなさんの中には、この春から初めて弘前で暮らすという方も多くいらっしゃると思います。私も故郷広島を離れ、遠く離れたこの地で暮らし始めてから1年以上が過ぎました。弘前に住み、故郷とのたくさんの違いを感じました。日の出と日の入りが早いと感じたり、夏でも夜は寒いことや冬の雪の量に驚いたり…。確かに最初は慣れないこともたくさんあり、ス〇バがないことにショックを受けました。けれど、土手町には素敵なカフェがたくさんあるし、鍛冶町で飲むときは終電を気にする必要はありません。みなさん、さくらまつりは行かれましたか？私は弘前の桜ほど生命の力強さを感じる桜を見たことがありません。津軽富士とも呼ばれる岩木山は、富士山よりも美しいと思います。まだまだ私は弘前に住んで日は浅いですが、弘前のことが大好きです。入学を機に弘前に来た方はもちろん、生粋の弘前っ子にもこれからの大学生活で弘前のことをもっと知り、もっともっと好きになってほしいと思います。みなさんの弘前大学での生活が実りある、楽しいものとなることを心から祈っています。

野村 優
医学部医学科2年



新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、改めてご入学おめでとうございます。辛く苦しい大学受験を乗り越え、弘前大学の一員としての日々を歩み始めた皆さんは今、将来への希望に満ち溢れていることと思います。

大学入学とは皆さん一人ひとりが思い描いている将来の夢、なりたい自分へと向かっていく第一歩であると思っています。大学での学びは高校までとは異なり、全員で同じことをこなす訳でもなければ、明確なゴールがある訳でもありません。それだけに、自分から積極的に動き、学びに行く姿勢が大切になります。特に1学年では、時間割の組み方や部活の頻度などにより、人によってはかなり時間にゆとりをもって毎日を送れると思います。これは今まで勉強に追われてきた学生にとって喜ばしいことではありますが、ともすれば体が楽を覚えてしまい、だらけてしまう危険性もはらんでいます。僕自身も、昨年度の時間的な余裕をあまり学びにつなげられず、趣味や遊びに没頭しすぎてしまったことを後悔する思いがあります。大学は自分の意志さえあれば、どこまでも学びを深めることができる素晴らしい場です。弘前大学生としての毎日を、友人や先輩、先生方などとの出会いを大切に、よく学びよく遊んで、悔いなく過ごしてほしいと思います。



藤岡 大介

医学部保健学科理学療法学専攻1年



自信をもって

僕は、自分の本当に進みたい進路を見つけるのに、ほかの人よりも少しばかり長い時間がかかりました。本来の自分ならばその進路をあきらめてしまうような時間の遅れでしたが、周りのさまざまな人たちの支えや後押しもあり、この理学療法を学ぶ場所へ来ることができました。とても感謝しています。

この場所に来るまで、“自信”の大切さを非常に感じさせられました。自信を持続するためには、やるべきことをこなし、さらにその上のレベルを目指す意識がないと成り立たないと自分は考えています。しかし、その自信が味方についてくれた時、想像以上の力を発揮できました。

自分にとって、行きたい大学に行ってそこの勉強を頑張るのは当たり前前で、課題ではありません。理学療法に関する学問しかり、コミュニケーションしかり、それらについていかに自信を持てるようになるかが僕の課題です。

しかし、自信に甘えて奢ることは決してせず、視野を広く持って、楽しみながらこの課題をこなせて行けたらなと思っています。

福士 琴美

医学部保健学科作業療法学専攻1年



大学生活の抱負

入学してから既に一カ月が経過しました。大学での生活にも少しずつ慣れ始め、毎日楽しく過ごすことができています。同じ専攻の友達はとても親しみやすく、活発で、それぞれが持つ個性豊かなエネルギーに日々驚かされます。

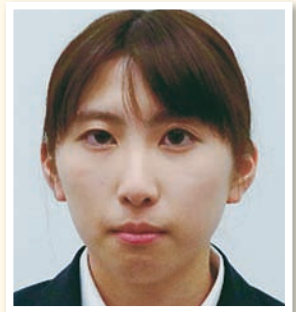
私が大学生活に抱く目標は、「能動的に行動すること」です。私はこれまで、誰かに促されるままに行動することが多く、いつも自分から動くということが苦手でした。しかし、新たな学生生活が始まり、自分のことは自分だけでしなくてはいけない状況に直面しています。今までのように誰かの動きを真似したり、「何となく」で行動したりするだけではやっていけないと感じています。そこで、大学1年生としての最初の目標を「能動的に行動すること」としました。

現時点では特筆する苦勞はありませんが、先輩方のお話を聞く限りだと、今後は解剖実習など一筋縄ではないようなことも多々ありそうです。

いずれ訪れる病院実習や就職活動、そして職業生活の糧となるよう、勉強やサークル活動を通じて有意義な大学生活を送りたいと思っています。

金森 未侑

医学部保健学科看護学専攻1年



「今」を大切に

大学生になって2ヶ月が経ち、ようやく学校生活にも慣れてきました。地元を離れて新しい環境で新しい友達と過ごし、やることすべてが一からでした。新しい環境に入る時はいつも少し怖さを感じます。しかし、その先に何か素晴らしいことや自分のプラスになることがあると思うからワクワクします。

人生で最後となる学生生活を有意義に過ごしたいと思います。私はつい、先のことばかりを考えてしまいがちです。将来どういうことができるようになりたいとか、どういう人になりたいとか、どう生きていきたいとか。将来を見据えることはもちろん大事なことです。将来と同じくらい「今」も大切です。「今」は今この時しかありません。「今」だからできることがあります。私は、人とのつながりは大切にしたいです。部活動やサークルに参加するなど、自分から行動を起こさないと人とのつながりは始まらないし広がりません。受け身ではなく、自分から積極的に多くの人と関わっていきたいと思います。

焦って先のことを考えすぎずに、でも常に目標は持って「今」という時間を大切に過ごしていきたいです。

敦賀 麻彩

医学部保健学科看護学専攻4年



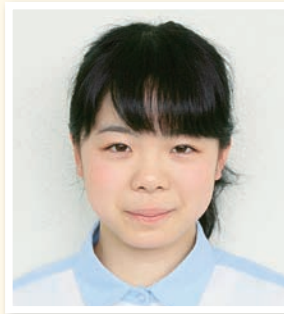
今しかできないことを

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。弘前公園の桜祭りには行きましたか？4度目の桜祭りだなあと、しみじみしながら今年は5回行きました。4年間、長い長いと思っていた大学生活、最後の学生生活もあと1年で終わります。入学したのが3年も前だなんて…。時の流れは残酷です。

地元を離れて一人暮らしや寮、下宿で暮らしている人が多いと思います。自分の時間も増えたことでしょう。「大学生は、学業・サークル・バイト・恋愛のうち2つしかできない」という話を聞いたことはありませんか？大学生なんだから勉強！とは思いません。大学生だからこそできるサークルもバイトも恋もあると思います。私も3年間でいろんなことがありました。楽しかったり悩んだり泣いたりしたけど、だから今の私がいると思います。4つのうち2つしか一辺にできなくても、メリハリをつけてやればいいんです。勉強しろとは思いませんと言いましたが、大学に来た意味はみなさんきっと学ぶためだと思います。その根底を忘れないで、4年間で様々なことを経験してください。最後の学生生活です。悔いのないように。あっという間ですよ。

石田 沙織

医学部保健学科作業療法学専攻3年

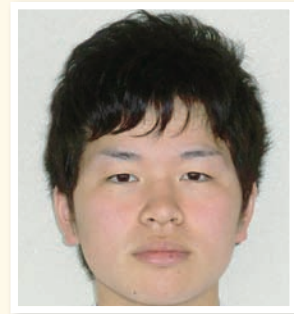


1年生に向けてのメッセージ

1年生のみなさん、ご入学おめでとうございます。大学生活はこれまでの生活に比べ、大きく環境が変わったことでしょうか。はじめは戸惑うことと思いますが、大学生活での毎日新しいことの発見だらけです。楽しいこともあれば悩むこともあることと思います。決して恐れず好奇心を持ってたくさん場所に行き、たくさんものを見て、そしてたくさんの人と関わってください。大学生活での時間はみな等しく限られたものですが、その時間のなかでいかに自分にとって充実した生活を送ることが出来るのかがとても大切だと思います。自由な時間の確保がしやすいのもまた大学生ならではのことでしょう。しかし何においても「自己責任」というものが付いてくるので、自分がいま何をやるべきなのかをしっかりと把握しながら行動することも大切です。大学生活での思い出、そして仲間は、社会に出てからずっと活き続けると思います。みなさんぜひ大学生活を充実したものにしてください。

志田 航平

医学部保健学科理学療法専攻3年



新入生へのエール

新入生のみなさんこの度は弘前大学へのご入学おめでとうございます。新入生へのエールということで、私から2つ心掛けてほしいことがあります。

一つ目は勉強面についてです。この弘前大学への入学を選択した理由は一人一人異なると思いますが、何らかの目的・目標を持って入学したことは間違いないでしょう。しかし、大学生活は高校までとは違い、自由な時間が多く、また勉強を強制させられることはありません。自主的に努力することが今まで以上に求められてきます。入学の際に抱いた目標・目的に向かって自ら進んで行動することを心掛けてほしいと思います。

二つ目は人との交流についてです。部活・サークルに所属し、違う学部の人と交流することは、大学生活をより充実させてくれます。組織の中で自分の役割を見つけて行動することは大学を卒業して環境が変わった時に必ず役に立つと思います。また、広い交流は勉強面においても大事になります。大学は情報が非常に多く、一人では困難なことが多々あるので、友人と積極的に情報交換をすることを意識して生活してほしいと思います。

今述べた私の言葉が少しでも役に立つことができれば光栄です。弘前大学での貴重な時間をぜひ楽しんでください。



小山内佑弥

理工学部知能機械工学科 1年

弘前大学の新たな一員になって

弘前大学に入学してすでに1か月以上経ち大学生活にも慣れ始めてきました。

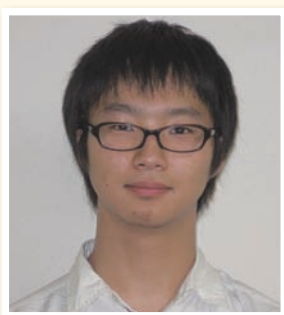
最初こそ不安はあったものの、ガイダンスや、生協主催のイベントに参加して大学生活を知り実際に生活を送ってゆくうちに、その不安もなくなり生活を楽しむ余裕も出てきました。説明には聞いていましたが、実際に生活してみて、「自由時間」の多さを感じています。一日の大半が埋まっているという日はほぼなく逆に位置の大半が空きという日もあります。朝から晩まで座学だった高校時代に比べると講義のない時間が多く、いまだに慣れませんがこの時間を有効に活用していく方法を考えようと思います。

1年前期ということもあり専門分野はほとんどないので理工という感じはあまりありませんが、研究室紹介などで実際の実験や研究を見ると早く専門を学びたいくなります。

弘前大学にはたくさんのサークルや部活があります。僕はどこにも所属していませんが同じ科の人も様々なサークルに入っていて、その多さを感じます。新歓や顔合わせの時期もすぎ出遅れてしまいましたが自分に合いそうなサークルを探してみようとも考えています。

千葉 悠也

理工学部物質創成化学科 1年



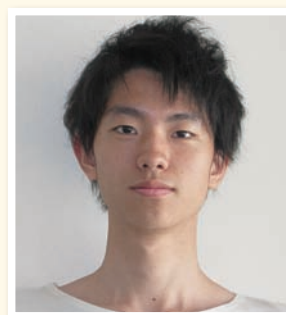
大学という場所

私が大学に入学して一番感じたことはやはり「大学は自由である」ということでした。時間割の作成から、各種講座の参加、空き時間の利用など、大学ではほとんどを生徒自身で決めることができます。その結果、生徒はそれぞれの大学生活を送ることができます。ですが、「自由」は単独では存在しません。なぜなら、私たちの生活が「自由」である時、同時に私たちは私たち自身の生活に責任を持たなければならないからです。まず、大学には高校のように、私たちを導いてくれる人がいません。全て自分で判断して行動しなければなりません。よって、各自の責任で行動することが求められているのです。

弘前大学に入学して一ヶ月が経ち、私もやっとその「自由さ」にも慣れてきました。私は将来、化学系メーカーに就職して最先端の研究開発に携わりたいと思い、物質創成化学科を受験しました。大学の授業は、高校の授業よりもはるかに難しいですが、自由な時間を有意義に使うって学んでいきたいと思っています。特に、化学は1年生のうちをしっかり基礎をまなび、2年生から始まる化学専門の授業に備えていきたいです。また、化学の卒業研究や大学院で研究をしていく上で、英語の記述、読解、プレゼンの能力は必要不可欠となっていきます。私はあまり英語が得意ではないので、1年生のうちから目的意識をもって英語を勉強していきたいです。そして、自分が大学生であるという自覚を持ち、一人の社会人として卒業できるように中身の詰まった四年間にしていきたいと思っています。

菊地 彪斗

理工学部物理科学科 1年



弘前大学に入学して

私はこの弘前大学に進学できたこと、そしてこれから4年間この弘前という街で生活することができるということについてとても嬉しく思っています。この弘前という街の印象は、第一にやはり桜が綺麗だということです。地元ではあんなに大きくて綺麗な桜は見たことがなく、とても感動しました。そのほかにも街の人がとても優しくったり、空気が綺麗で地元よりも星が綺麗に見えたりと、私はこの街に来てすぐにこの街の穏やかな雰囲気がとても気に入りました。次に弘前大学の印象ですが、入学前のサポートセンターや、学生委員会が開催する新入生向けイベントなどでの学年を超えた縦のつながりの強さがとても良いと思いました。また学科内やその他の教職員の方々は話した印象がとても親しみやすく、授業の質問などが気軽にできるのが嬉しいです。また弘前大学は部活動がとても盛んだと思いました。特に大勧誘会などの勧誘活動ではどの部活も魅力的で、なにかひとつのことにひたすらに打ち込むことのできる弘前大生の力強さを感じることができました。私はこの街とこの大学の新たな一員になれたことがとても嬉しいです。そしてこれからの学校や街での行事、活動がとても楽しみです。

荒木田大貴

理工学部数理科学科4年

人生の夏休み

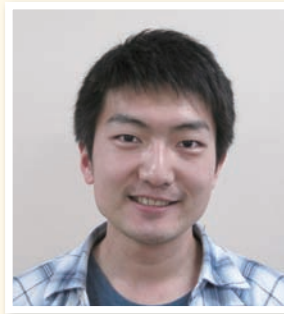
大学生活を「人生の夏休み」と言う人がいます。私が入学した頃、先輩もおっしゃっていました。実際に3年間過ごしてきましたが、そうかもしれません。ほとんどの人にとって、大学生活は、今までの人生の中で1番、自由に使える時間が多いと思います。その時間をどう使うかはあなた次第です。授業を欠席して遊ぶ、1日中家で寝ている、すべて自己責任です。ただ、時間はあっという間に過ぎてしまいます。「本当に充実した大学生活だった!」「なんて無駄な時間を過ごしてしまったのだろう…」、皆さんはどんな気持ちで卒業したいか、考えてみてください。

やっておくべきことをいくつか挙げます。好きなことを見つけましょう。大それたことでなくてもいいので、大学で〇〇を頑張った、と誇りを持てるくらい何かに打ち込んでください。単位は早めに取得しましょう。就活、公務員試験等の対策が思うように進まなくなります。アルバイトを経験しましょう。コミュニケーション能力など、社会で必要なことが身に付きます。

やることをやっておけば、思いっきり遊んでいいと思います。周りへの感謝の気持ちを忘れずに、あなた方一人ひとりの有意義な「夏休み」を楽しんでください。

渡邊 眞之

理工学研究科電子情報工学コース2年



新入生のみなさんへ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。入学から1か月がたち、今までとは違った生活にも慣れてきたころでしょうか。高校のときは違い自由な時間が多く、何をしたいかわからない人も多いと思います。

私がここまで大学生活をしてきて重要だと思うことは、目標を持って行動することです。目標を持つことで、その目標を達成するためにいろいろ自分で考えることができたり、その過程で多くのことを経験したりすることができると思います。私の場合は海外に行くという目標を持ち、一人でのイタリア旅行を計画しました。自分で旅行計画を立て、自分でお金をためて、海外へ行ったことを通していろいろなことを学びました。大学院に入ってから海外での学会発表でその経験を生かしました。

大学生活は長いですが、何も考えず過ごしていると何も変わりません。しかし自分で考え行動したことは、どんなことでも自分のためになると思います。勉強、アルバイト、サークル、ボランティア、趣味等、何でもいいので、目標を持って行動をして学生時代を楽しみ、有意義なものにしましょう。

野呂 康平

理工学研究科地球環境学コース1年

大学生活

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。早速ですが、大学生活は楽しいです。サークルや研究室の仲間と日々を過ごすことにより大学生活の4年間は有意義になるかと思っています。しかし、楽しいことばかりを優先していると後々取り返しのつかないことになることも理解しておいてください。私は現在修士1年で弘前に住んで5年目になります。ですが未だに弘前の街を散策していると気付かなかった景色や新しい発見があります。なので、ぜひ新入生の皆さんは自転車を買って、活動範囲を広げ色々なものと出会ってください。そうすると大学生活はさらに充実していくと思います。何はともあれ勉強も大事ですが、今しか出来ないことを見つけてどんどん挑戦してください。

4年間で培った経験は何事にも変えられないものになるはずですが、でも単位は落とさないでね。



大木 貴博

農学生命科学部園芸農学科1年



弘前大学に入学して

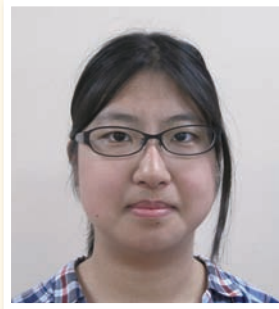
千葉県から出てきた私にとってここ弘前は新天地であると同時に知らない土地での一人暮らし、という不安の種でもありました。しかし一か月を過ごしてみてその不安も大分なくなりました。なぜなら同じような境遇の方は他にもたくさんいましたし、同級生や先輩方がみんな優しくいい人だからです。そしてそんな方々と関わり、意見を交換し合って様々な価値観に触れることで今までの自分の考え方が良い影響を受けていると思います。

私は馬術部に入りました。交友関係を広げることもそうですが、自分のまだ知らない世界を見てみたいというのと、自分本位だけでなくもっと視野を広げることも重要であると考えたからです。馬と人、両方の面から学べることはとても多く、かつ非常に貴重な経験だと思います。

まだ私の将来の夢は決まっていません。ですがそれを見つけるためにここにきました。これからの弘前大学での四年間できっと私にとって初めて経験することが数多くあることかと思っています。それらの経験を通して自分のやりたいことを探し、それらの経験を活かして将来の自分自身に繋げられるよう頑張っていきたいと思っています。

築場ひとみ

農学生命科学部生物学科1年



視野を大きく広げたい

満開の桜に見送られ、神奈川県から引越して来て早一ヶ月半。弘前へと真っ直ぐ600km北上してきた私にとって見るもの全てが新鮮に映りました。初めて見る風花。本の中でしか見たことのない植物や鳥、海から遠いはずなのに時折潮の香りが風にまじる不思議な藤崎町など、自転車に跨って外に出るたびに何かしら新しい発見があり、寝る間が本当に惜しいほど毎日が楽しいです。

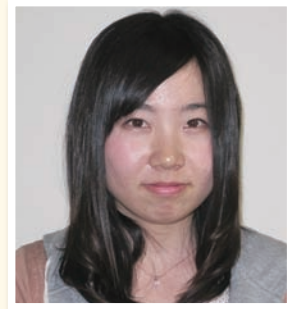
今はまだ講義の大半が21世紀教育科目ですが、どれも面白いものばかりで弘前大学に入学してよかったと思っています。また、図書館の中を探検していると、読みたい本が分野を問わず（それこそ古典文学から生物学の本まで！）次々と見つかりました。あまりにもその数が多いので、貸出数の上限に涙をのみつつ、上限いっぱいまで講義の参考文献と自分の趣味の本を借りています。

街並みや勉強の他にも弘前大学へ入学したことで良かったと思うことは、良い友人が沢山出来たことです。様々な出身の友人たちとそれぞれの文化の違いに驚きながら、日々和気藹々と過ごしています。

最後に、大学生になったからには、やりたいことを見つけて自分の出来る限りを尽くし大学生活4年間を実りあるものにできるよう頑張りたいと思います。

山口裕里絵

農学生命科学部地域環境工学科1年

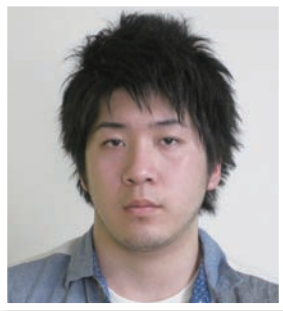


これからの4年間。

ふと気が付くと、雪もすっかり溶けきり春が来ていました。自分の決めた未来にたくさんの希望を抱えて、弘前大学に入学した1か月前。もちろん不安もあったけど、それ以上に楽しみでした。その気持ちは1か月たっても変わらず、これからこの学科で学んでいくであろう事、大学生活、サークル、すべてが楽しみです。この4年間で、目標にすることがあります。1つは、もちろん学問です。自分が興味あること、知りたいことを全力でやれるこの時間を大切にして、学べることに、この環境にいられることに、そして多くの人に感謝して、励みます。自分のものとして、誰も奪うことのできない知識を、経験を、仲間と積み重ねたいと思います。そしてもう一つ。なんでも楽しめる強い人になること。どんな人でもそうだと思いますが、それぞれにいろいろな経験をしてきたと思います。私は引越しが多く、そこから多くのことを学びました。それらのことから、家族には心から感謝しています。引越しをしていく上で、考えたことも沢山ありました。どんなひとになりたいか。臨機応変になりたい、とか、笑っている人になりたいとか。もちろんあるけど、この4年間は、なんでも楽しめる強い人、を目標にしたいです。目標もあり、仲間もいて、この4年間、絶対に素晴らしいものにします。

熊坂 直也

農学生命科学研究科生物資源科学コース1年



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新たな環境での生活にはもう慣れた頃でしょうか。

私がまず皆さんにお伝えたい事は、大学という環境は何より自主性が重んじられる場所だということです。大学では比較的自由にできる時間が多く、その時間をどのように活用するかは各自に委ねられています。しかしその自由さ故、受け身の姿勢でいると墮落した怠惰な生活を送りがちになってしまいます。そうならない為にも、新入生の皆さんには大学での時間が有限である事を理解して、何事にも自主的に活動して欲しいと思います。

学業。サークル。部活動。アルバイト。留学。資格の取得。皆さんが取り組める事は沢山あると思います。また、気のおける友人と小旅行を企画したり、自転車で気ままに一人旅に出てみるのもいいかもしれません。長期休暇を利用して海外旅行へ行ってみたり、恋人と店巡りをしてみるのもいいかもしれません。大学生活は人生におけるモラトリアムにあるのですから、最大限謳歌しつつ、様々な知識を吸収し、様々な事に挑戦して、自分の感性を思いっきり刺激してみてください。そうすれば4年後には、私の同期生がそうであった様に、素晴らしい4年間だったと胸を張り、大学を後にする事が出来るのではないのでしょうか。私も大学院へ進学した身として、皆さんと一緒に精進していきたいです。

そして最後に、大学は様々な人が集まる場所です。中には積極的に行動するのが苦手な方も居ると思います。そんな方も、一つでも構いません。勇気を出して何かしらのコミュニティーの門戸を叩いてみてください。きっとそこには充実した大学生活が待っているはずです。

伊藤 汐音

農学生命科学研究科分子生命科学コース1年



今しかできないことを

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。弘前大学の学生になって早2ヶ月、新生活はいかがでしょうか？きっと新鮮さと勢いに溢れていることでしょう。

私はこの春大学院に進学しましたが弘前大学での4年間を振り返って、皆さんの今後の学生生活に少しでも参考になるお話ができれば、と思います。大学生といえば、勉強にサークル、バイト…勉強を頑張るのは当たり前なので私からはその他について。サークル、バイトなどは学生生活にオプションとして自分で選択・追加できるものですが、ぜひ経験しておくべきだと思います。大きなメリットは交友関係が広がることで、夢のキャンパスライフの充実度が飛躍的に上がります。バイトに関して具体的なことを言うと、文系は通年でも問題ないと思いますが、理系は研究室配属前に経験しておくことをおすすめします。1、2年時は授業こそ多いですが、配属後は学校に拘束される時間が長くなる人が大半ですので、時間のあるうちに。大学は高校までとは違いHR制度もない自由なシステムなので、空き時間を自分でカスタマイズでき、どう楽しむかは自分次第。大学生である今しかできない、社会人になる前の最後のチャンスです。皆さんのこれからの大学生活がより良いものになるといいですね。

安川 大河

農学生命科学部園芸農学科4年



充実した大学生活を！

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。新たな大学生活を楽しめていますか？

入学当初の自分を振り返ると環境の変化へ不安を募らせると共に、大学生活への充実にも期待していました。後者を実現するため、入学後は講義・演習の学習面のみでなく、サークル及びアルバイト等課外活動にも積極的に取り組みました。こうした取組を志した理由は、私が「大学生の時にしか出来ないこと」、「大学生の時に身につけておくべきこと」の2点を重視しているからです。この2点を重視すれば、自分が社会人となった時に「大学生の時に、もっと〇〇〇をやっておけば・・・」という悔いを残さず、大学時代の4年間をフル活用できるのではないかと考えたことが契機です（勿論、学友やサークル・アルバイトの仲間との遊びの時間も含まれています）。こうした自分について色々考える時間を持つことは大学生の特権なのかもしれません。

現在、私は就職活動を終え、卒業論文を作成しております。卒業後、社会人として働いたときにも弘前大学での生活について胸を張って語れるようになりたいと思っています。最後になりますが、新入生の皆さん、弘前大学を精一杯楽しんでください！

教授 尾田 敦

健康支援科学領域・健康増進
科学分野 義肢装具学研究室

保健学研究科

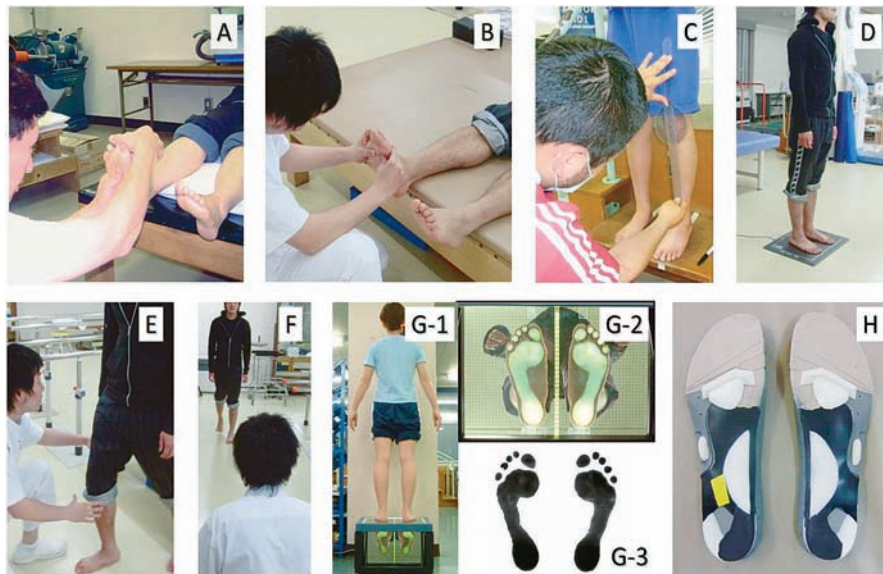


図1 足部機能・アライメント評価および足底挿板の一例
A：足部機能評価① (Windlass) B：足部機能評価② (足部柔軟性テスト)
C：静的アライメント評価 (Quadriceps angle) D：重心動揺・足圧計測
E：動的アライメント評価 (Squatting test) F：歩行観察 G：Pedoscope による足底観察と footprint
H：作製した足底挿板の一例

平成26年4月現在で、尾田研究室には博士前期課程4名(2年3名、1年1名、4名とも社会人)、学部4年2名が在籍しています。研究室のメインテーマは「足部形態および足部機能が運動能力に及ぼす影響」に関する研究です。今回、研究室紹介の原稿依頼をいただきましたので、概要を紹介させていただきます。

足部形態や足部機能といってもすぐに理解できる方は少ないと思いますので、簡単に解説します。まず、足部形態についてです。足部とは足関節より遠位の部分を指し、いわゆる“足”です。足には片足で28個、両足で56個の骨があり、身体全体の骨の数206個のおよそ1/4が足部に集中していることになります。隣り合った骨は関節を形成し、複数の靭帯で結合され、それぞれの関節は筋肉により運動が起こります。足部には38個の関節と107個の靭帯があるとされており、足部はたくさんのパーツが綿密に組み合わされた器官です。これらの骨の配列のことをアライメントと呼びますが、身体の中で唯一地面に接して身体を支え、また身体の動きを誘導しているのは足部です。足部の骨配列の異常(マルアライメント)が生じると、局所の疼痛発生の原因となり、その上に連結された体節にも大きな影響を及ぼして、姿勢の変化や身体全体の動的な運動制御が不十分となって非効率的な身体動作となるため、パフォーマンスに影響を及ぼすことは容易に予想がつきます。

足部形態を把握するにはこのようなマルアライメントの有無を評価することから始まります(図1)。わかりやすいところでは扁平足・外反母趾といったものが挙げられるのではないのでしょうか。その他に、内反小趾・浮き趾・開張足・回内足・回外足・凹足といった形態異常があり、それぞれが相互に関連しています。

次に足部機能です。足の持つ機能で重要なものは足のアーチ構造です。いわゆる「土踏まず」と呼ばれるものですが、骨・関節・筋肉・靭帯などが一体となっ



た機能的なシステムで、①体重の支持と衝撃吸収、②歩行の推進、③足部の保護と放熱、といった役割を果たします。片足が床から受ける反発力は、歩行で体重の1.5倍、ジョギング中は体重の3倍、ジャンプでは体重の6倍にも達します。体重77kgの男性が1日8,000歩歩くとすると、1日の総負荷量は約1tといわれており、狭い足底面で痛みがなくこれだけの衝撃を受け止めながら日常生活を送っていることは奇跡に近いといわざるを得ません。そして「土踏まず」はヒト以外の動物には存在しません。

この土踏まずがなくなった状態が扁平足であり、足アーチ（内側縦アーチ）が低下していることを指します。しかし、正常との境界ははっきりと定義されていません。それにもかかわらず、巷では『扁平足は足が遅い』とか『扁平足は運動音痴だ』とか『扁平足は疲れやすい』といった噂があります。果たしてこの噂は本当なのでしょうか。当研究室ではこれまでこの噂の検証に挑んできました。

アーチの高さを評価する方法には、骨格の高さを測る「アーチ高率：アーチ高/足長×100 (%)」があります。また、足の外見の観察によるfootprint（足跡）をとって評価する方法もあります。世界的にはfootprintを用いた研究が多く、様々なインデックス

（評価指標）が開発されていますが、骨格のアーチが高くてもその部分に脂肪や筋肉がたくさんあると扁平足と判定されてしまうという欠点があります。脂肪の多い人と筋肉の発達している人では運動能力は当然異なるはずですが、ひとまとめにされて運動能力が劣っていることが指摘されています。なぜならば、土踏まず部分の筋肉が著明に発達しているのは一部のトップアスリートのみで、扁平足のほとんどは脂肪過多か骨自体のアーチが失われた人と考えられるからです。それに対して、アーチ高率による評価は軟部組織に対する考慮が少ないため、我々の研究でも成人では運動能力の関係が明確になりませんでした。また、標準値といわれるものは現段階では存在しません。標準値を確立するためには、様々な年代での大標本の調査が必要です。しかし、これまでの先行研究では、足部の成長は12歳以降みられなくなり、ほぼ成人と同じ形態になること、40歳代以降は加齢に伴って徐々にアーチ形状や足部形態の異常が生じやすいことが指摘されていることから、まずは若年成人での標準値を明確にすることから取り組みました。そして、骨格評価と観察評価のそれぞれの欠点を補い、より扁平足の判定を客観的に行うために、アーチ高率とfootprintを組み合わせた判定方法を考案し、足趾で把持する筋力（足趾把

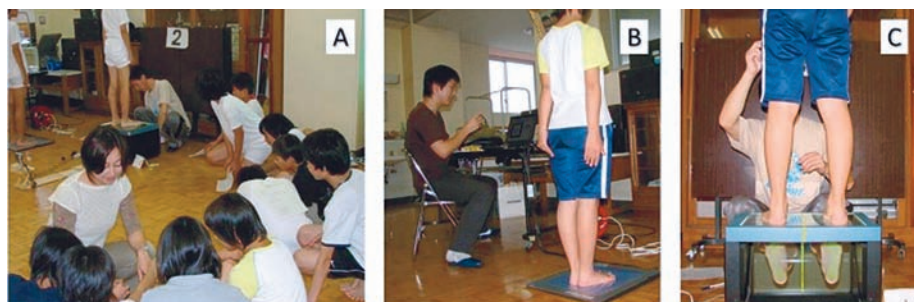


図2 小学生の足部調査の様子

- A：フィールド調査会場にて
- B：足圧分布測定
- C：静的アライメント評価
(Pedoscope 観察)
- D：柔軟性評価
- E：動的アライメント（片脚立位テスト）
- F：NHK『ためしてガッテン』収録
(2012.5.2)





保健学研究科

健康支援科学領域・健康増進科学分野 義肢装具学研究室

持筋力)もあわせて測定することで運動能力との関連性を検討しています。

同時に、子どもの成長過程で足アーチがどのように変化するのかを市内の某小学校をフィールドとして経時的に調査しています(図2)。

平成24年5月にこれらの研究が学会発表等を通してNHKの『ためしてガッテン』という番組に取り上げられ、保健学研究科および研究フィールドになっている小学校にて撮影を実施しました(平成24年6月20日放送)。番組ではこれまでの定説を否定し、『扁平足だからといって運動能力は決して劣っておらず、むしろ足趾筋力が強く、足が速い場合も多い』と結論づけました。また、我々が過去に行った研究成果を参考にした「扁平足では疲れやすい」ことを検証する実験も紹介されました。現在も小学生のデータ収集は継続しており、近年の子どもの運動能力の低下に足部形態の影響が関与している可能性は高いと考えられるので、今後の研究結果に期待が集まります。

現在の研究室に在籍する院生(2年生)の研究を紹介します。一つは、足部のマルアライメントに起因する下肢障害に対して行われる足底挿板療法の効果を検証する研究です。足底挿板療法は、靴の中敷きにEVAやポロンシート、ソルボセイントといった材料で作製したパーツを貼付することにより、無意識的な足部形態矯正や足部機能補助効果をねらった治療で、近年、スポーツ選手の障害予防・治療・パフォーマンス向上にも寄与する方法として注目されている治療法の一つです。この研究ではFPI(Foot Posture Index)という評価尺度をアウトカムに加えて長期効果を調査しています。二つめは、外反母趾の症例に対して、変形が固定化する前に、足趾を開く作用のある母趾外転筋に電気刺激を加えて賦活させる治療を行った際の効果の継続性に関する研究です。三つめは、高齢者の介護予防を目的とした運動器の機能向上プログラムとして体幹や下肢の筋力トレーニングやストレッチおよびバランストレーニングがありますが、足関節や足部のトレーニングが含まれないため、それに代わる方法として足底挿板の併用が、よりパフォーマンスの向上に

有用かを検証する研究です。いずれの研究も、臨床で働く理学療法士ならではの臨床研究であり、結果はそのまま臨床の治療に反映されることが期待されます。

学部の卒業研究では、研究過程を学ぶことの一環としての意味づけもあるため、結果が直接臨床に反映されにくい部分もありますが、現在在籍中の学生のテーマとしては、小学生の運動能力に生活習慣がどのように関わっているかの研究、足部機能を高めるソックスの研究など、興味深い課題を追求しています。他にも、キネシオテープの効果検証や、浮き趾の運動能力への影響などを検証する研究なども行われています。また、OB・OGもゼミ活動に自主的に参加し、共同研究を行うとともに後輩へのアドバイスなどもあり相乗的な効果をもたらしています。

今後も尾田研究室ならではの『足』に纏わる独創的なテーマの研究が続くと思いますが、皆様のご指導ならびにご支援を賜りたく、よろしく願いいたします。

健康支援科学領域・健康増進科
学分野 吉田研究室

講師 吉田 英樹

保健学研究科



写真1 研究室に所属の大学院生による実験風景

1. はじめに

この度、「弘前大学学園だより」の編集委員の先生より当研究室の紹介に関する原稿依頼をいただきました。私が弘前大学に着任したのは、2005年の4月でありました。それから現在に至るまで、私自身も当研究室も紆余曲折、様々な経験を積みながら曲がりなりにも歩んで参りました。来年は、私自身、そして当研究室の歩みも丁度一区切りと考えられます“10年目”を迎えることになります。この度の原稿依頼は、当研究室の足跡を振り返り、今後の研究活動の方向性を再確認する上で大変良い機会となりました。

2. 研究室紹介

現在、当研究室には指導教員である私（吉田英樹講師）の他、博士前期課程（2年生）2名と学部学生（4年生）3名の計6名が所属しています。また、今春、当研究室に約1年半所属した学部学生（卒業生）5名が、個々に卒業研究として素晴らしい研究成果を作り上げ、社会人として巣立っていきました。このように、当研究室はまだまだ小規模な陣容です。今後、やる気のある多くの大学院志望者に当研究室への参画を目指していただけるような魅力ある研究室作りに励んでいくことが喫緊の課題であると考えています。

当研究室で取り組んでいる主たる研究テーマは、理学療法の中でも特に「物理療法」に関する理論と学理の探求です。ところで、「理学療法」とは、リハビリテーション医学で用いられる治療手段の一分野であり、その定義づけとしてはやや古典的にはなりますが「身体に障害のある者に対し、主としてその基本的動作能力（座ったり、立ったり、歩いたりする能力）の回復を図る」というもので

す。そして、物理療法は、運動療法（筋力トレーニングや色々な動作練習などを考えていただくと分かりやすいと思います）とともに理学療法の両輪をなす重要なものなのですが、国内外ともに物理療法に関する研究活動は十分とは言えない状況が続いてきました。その結果、物理療法は、経験的に効果があるのは分かるのだけれどエビデンスに乏しいという大きな問題を抱え続けています。物理療法は、文字通り物理的刺激、すなわち温熱刺激や電磁気刺激などを身体に加えることで痛みや循環不全、筋のこわばりなどの障害の軽減を目指す治療法であり、リハビリテーション医学における大変重要な分野です。この物理療法の効果に関するエビデンスを構築し、さらに物理療法の新たな応用の方法を検討、開発していくことが当研究室の主目標となっており、日夜研究活動に勤しんでいます（写真1、写真2）。

以下に、当研究室のこれまでの研究成果の一部と今後の課題などについて記載致します。

3. 研究紹介

1) 近赤外線照射による神経・筋機能制御に関する研究

「近赤外線」という言葉に馴染みの薄い方もいらっしゃると思います。近赤外線は、家電製品として馴染みの深い遠赤外線暖房機で使用されている「遠赤外線」と類似した性質を有する光線です。どちらの赤外線もヒトには温熱作用をもたらしますが、両者の決定的な違いは「光線が皮膚より深くまで浸透し得るか否か」ということです。遠赤外線はほぼ全てが皮膚表面で吸収されてしまいますが、近赤外線は皮下に存在する神経や筋肉まで到達し得ます。その結果、近赤外線の温熱作

用は、神経や筋肉にも及ぶこととなります。このような近赤外線の性質を利用して、近赤外線を目的とする神経や筋肉に対して皮膚の表面から照射することにより、過剰な交感神経活動の抑制や筋肉の血行および柔軟性の改善、精神面でのリラクゼーションの促進といった効果が得られることが分かりました。このような近赤外線照射に伴う効果は、ヒトでは「ストレスからの解放時」に認められる現象と類似していることから、今後の大きな課題は近赤外線照射を用いたストレスマネジメントの可能性を検討することであろうと考えています。

なお、この分野については、国内では当研究室がトップクラスの研究成果を挙げていると自負しています。本研究テーマに関する科研費は、これまでに4回採択されている他、得られた研究成果は国際誌や国際学会（6th WCPT-AWP&12th ACPT Congress：写真3）などで発表しています。

2) 温熱刺激を用いたストレッチングの新しい実施戦略に関する研究

日常的に良く行われる筋肉の伸張運動（ストレッチング）ですが、ストレッチングの対象となる筋肉の直上の皮膚に対して温熱刺激を加えながらストレッチングを行う（以下、「温熱刺激とストレッチングの同時



写真2 研究室メンバーによる定期的な交流会も大切な活動の一つ



施行)」と、そうでない場合と比較してストレッチングに伴う苦痛をあまり感じることなくより強力なストレッチングが可能となることが分かりました。また、従来の温熱刺激を併用したストレッチングでは、筋肉を熱で軟らかくするために温熱刺激を最低でも20分程加えた後にストレッチングを行うことが一般的でした。ところが、「温熱刺激とストレッチングの同時施行」を行うと、筋肉が熱で軟らかくなるはるか手前、最短5分程度の温熱刺激の継続で十分な効果が得られることも分かり、大変効率的なストレッチングが行える可能性も出てきました。当研究室では、「温熱刺激とストレッチングの同時施行」が「門制御理論」と呼ばれるヒトにもともと備わっている痛みの抑制機構に基づいた手法であると考えており、実際にストレッチングに伴う苦痛が軽減されることも確認しています。今後は、「温熱刺激とストレッチングの同時施行」を行った場合と、通常のストレッチングを行った場合の実際のストレッチング効果を比較し、「温熱刺激とストレッチングの同時施行」の優位性を証明したいと考えています。

3) 痛みの軽減を目的とした電気刺激の至適刺激条件の解明に関する研究

現代人の多くは、肩や腰の痛みを軽減させる目的で体に電気を流した経験があると思います。このような治療法は専門的には“TENS (Transcutaneous Electrical Nerve Stimulationの略)”と呼ばれています。しかし、痛みを軽減させるためのTENSの至適刺激条件、すなわち、「どのくらいの強さの電流を流せ

ば良いのか? (刺激強度)」、「1秒間に何発くらいの刺激を加えたら良いのか? (刺激周波数)」といった問題については様々な考え方が提唱されており、未だに定説が得られていません。この原因の一つとして、TENSに伴う痛みの軽減効果を、ヒトの曖昧な主観に頼って評価してきたことが挙げられます。これに対して当研究室では、痛みの感じ方に関する客観的な評価指標とされている「交感神経活動」や「脳血流量」の変化に注目した検討を進めてきました。その結果、刺激強度については「筋収縮が生じる程度の強めの刺激」、刺激周波数については「100Hz程度」とするのが効果的だと分かりました。一方、最近のTENSの流行として、刺激強度や刺激周波数を一定とせず時間とともに変調させる手法が好まれる傾向にあることから、このような変調刺激を用いたTENSの痛み軽減効果に関する検討も今後の課題であると考えています。

4. さいごに

私の好きな言葉に「研究とは知的冒険だ(坪田一男氏)」というものがあります。物理療法や理学療法は研究テーマの宝庫であり、私は正に「知的冒険」の日々を送っています。これからも多くの学生さん達と「知的冒険」を共有できるように精進していく所存です。今後とも宜しくお願い申し上げます。



写真3 国際学会での研究室メンバー(教員、大学院生)によるポスター発表風景



弘前大学からの交換留学生としてニュージーランドにあるオークランド工科大学で英語を学習しています。ニュージーランドに来て2か月余りが経ちましたが、月日は意外とあっという間に過ぎたような気がします。現在はホームステイをしていてステイ先から通学しています。また、大学では、語学センターで韓国、中国など各国からの留学生と毎週月曜日から金曜日まで共に学んでいます。ニュージーランドに来たばかりの頃は英語圏出身の人たちが話していることをほとんど聞き取ることができませんでしたが、今は2か月前に比べて聞き取れるようになってきている気がします。

私が今住んでいるオークランドは気候の面で日本とは異なる点が多いため、慣れるまでには時間がかかりました。現地の方たちは基本的に優しい人ばかりで、そういった意味では日本人が過ごすには適した環境だという印象を受けます。中心街に出ると多くの人種が入り混じっていることが分かり、アジア圏出身の人も多数いて、日本人を見かけることもあります。

私は語学センターと7月から予定しているオークランド工科大学での履修期間を合わせて9か月ほど滞在する予定です。オークランド工科大学についてはまだ詳しくは分かりませんが、語学センターでの一日の日程は主にコアクラス、エレクトイブクラスと呼ばれる2つの授業で構成されていて、午前中はコアクラスで文法を中心に、昼はエレクトイブクラスでディスカッションを中心に学習しています。たいていの場合、授業は1時には終了し、そこからは自由時間となります。また月に1度テストが行われ、その結果に従ってクラス替えが行われるため、常に自分と同じレベルの生徒たちと授業することになります。また語学センターは、留学生に対するサポートが充実していて、環境の面ではかなり整っていると言えます。語学センターでの授業は、日本のように先生から生徒という一方向のようなものではなく、生徒から先生、生徒間のコミュニケーショ

海外留学の実際

理工学部 物理科学科 葛西 諒亮





ンも盛んに行なわれていて、非常に活発に意見が交換されています。これはよく言われることですが、生徒の中には日本の歴史や文化に非常に強い興味を持っている人、自分の意見をはっきりと持ち、なおかつ人前で主張できる人がいるため、彼らからの質問に答えるためには、事前に知識や自分なりの意見を持っておく必要があります、そういった部分でも自分を成長させることができたと感じています。

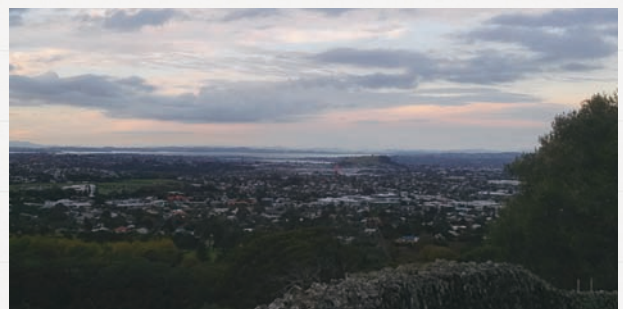
私が協定校留学を志望した理由は2つあり、カリキュラムの具体性の高さ、そして費用の面です。私は将来のために英語を習得したいという理由で留学を志望しましたが、具体的に何をすればよいのかが分かりませんでした。協定校を利用して留学する場合は、初めからカリキュラムが具体的に示されているため、留学を希望しているけれども具体像を持っていないという人にとっては選択しやすい道だと思います。また、先ほども述べた通り私が参加しているコースは語学センターとオークランド工科大学の2部で構成されていますが、協定校留学を利用することによりオークランド工科大学に関する費用が免除されるため、一般の留学に比べ費用を抑えることができます。

日本国内ではなく、海外で英語を学ぶということには、かなりの利点があると考えています。ニュージーランドに来てからは、会話が英語中心の生活を送っていますが、英語を学習する上で常時英語にさらされることの大切さを強く感じています。また日本では日常的に交わされる会話などを学ぶ機会は限られますが、海外ではそういった日本では学びに

くい英語に触れることもできます。

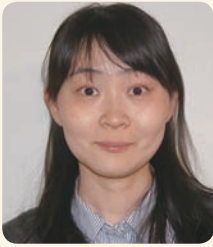
私が2か月の留学生活を通して強く感じていることは、日本の外に出て吸収できたことが自分の想像以上だったということです。ニュージーランドの実際を知ることによって逆に日本のことを知る、他国からの留学生とコミュニケーションを取ることによってメディアを通していない本当の国民性を知ることができる、など英語以外に関する有意義なことも多く体験したような気がします。留学に対して、私は何かハードルの高いものというイメージを持っていましたが、実際に経験している今はそう考える必要がなかったと感じています。日常的に英語にさらされる、周りの方と上手くコミュニケーションが取れない、など確かに精神的な負担は日本にいるよりも感じています、語学力に関してはそれほど心配する必要がないように思います。留学を考えているけれどあと一歩が踏み出せないという方には、留学を大袈裟なものとして考えるのではなく、もう少し身近なものとして捉えてみることをお勧めします。

実際にこの生活を始めるまでもに様々な困難があり、とても一人では乗り切ることができるものではなかったように思います。支えてくださった方々に対する感謝の意味も込め、目的である英語の習得に加え、様々なことを体験し、自分にとってかけがえのないものとなるよう最後の一日まで留学生活を楽しもうと思います。





「新任教員紹介」



人文学部
講師 武井 紀子

この4月より、人文学部国際社会講座に着任いたしました。日本古代史を中心に研究しております。東京から弘前に来て、咲きほこる桜の見事さ、雪を冠した岩木山の美しさに感動いたしました。また、街を散策すれば豊かな歴史に触れることができる、そんな弘前に早くも魅了されています。この地で教育・研究活動に従事できることを嬉しく思っております。今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。



教育学部
講師 小野 恭子

4月から、教育学部家政教育講座に着任いたしました小野恭子です。専門は家庭科教育で、これまでは小学校における家庭科の授業研究を主に行ってまいりました。特に多岐にわたる現代社会の問題を解決するための授業開発、教材開発、授業における効果などについての研究に取り組んでいます。今後は青森の地域性を理解し、小学校教諭として勤務していた経験を生かし研究を進めていきたいと考えています。



教育学部
講師 中山 忠政

2014年4月より教育学部に着任しました中山忠政です。これまで自閉症に関する制度や歴史について研究して参りました。授業では、障害児教育学概論や知的障害児教育方法などの科目を担当します。一足早くに衣替えをした「特別支援教育」も、昨年末に批准された障害者権利条約によって、新たな対応を迫られるのではないかと考えています。「障害者権利条約時代」ともいえる、新たな時代に対応したあり方についても検討していきたいと考えています。



教育学部
准教授 勝川 健三

平成26年4月に着任しました。これまで球根植物の開花調節や植物保全に携わってきました。その一方で、植物の魅力を伝えるべく子どもから一般向けまでの様々なコンテンツを実践してきました。その経験を活かし、これからは植物の魅力を子どもに伝えられる教員の養成を目指し、この弘前に所縁のある植物を用いて、ホンモノ・実物にこだわり、栽培だけにとらわれない研究・教育を行う所存です。どうぞよろしく申し上げます。

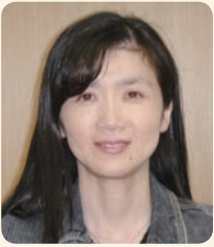


教育学部
准教授 上之園 哲也

30年間、公立中学校において、技術科の教師として教壇に立ってきました。その間に経験したことのエッセンスを少しでもお伝えできたらと思っています。また、現在の学校教育には学力低下や不登校など、課題が山積しています。それらの解決の方法は単純ではありませんが、最も重要な鍵となるのは「授業」だと考えています。そのような授業づくりの方法を学生の皆さんと探求していきたいと思っています。どうぞよろしく申し上げます。



「新任教員紹介」



保健学研究科
准教授 **藤田 あけみ**

平成26年4月1日に保健学研究科に着任しました藤田あけみと申します。16年ぶりに弘前に戻ってきました。専門は看護教育学です。看護教育学は、看護の対象である患者・家族はもちろんのこと、医療従事者、学生の成長を支援することを目的としています。成長する存在である人間にかかわるときに看護教育学はかかせないものです。学生の皆さんとともに自分も成長していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いたします。



保健学研究科
教授 **敦賀 英知**

4月1日付けで保健学研究科に着任しました敦賀英知と申します。専門は解剖学で、弘前大学の学生さんとともに勉強することを楽しみにしております。教育面では臨床に役立つ解剖学を目指してニーズに応えていきたいと考えております。各専攻の先生からご意見をいただければ幸いです。

研究は一貫して弾性系線維に着目してまいりました。今後も基幹研究を推進していきたいと考えております。

どうぞよろしくお願申し上げます。



地域社会研究科
准教授 **土井 良浩**

着任してからひと月半、桜の季節を経て、弘前という場所に少しずつ愛着が芽生えつつあります。私の専門は「まちづくり」。第一に、地域に望まれる暮らしや風景などのあり方を、地域の人々とともに考え、行動することにより地域を元気にすることを、第二に、それを可能にするモノの見方・考え方や仕組みを洗練することを目的に研究とフィールドワークに取り組んでいます。所属にかかわらず興味のある学生さんは、ぜひ遊びに来てください。



弘前大学医学部附属病院
リハビリテーション部
講師 **和田 簡一郎**

弘前大学医学部附属病院リハビリテーション部に着任となりました。専門は脊椎脊髄外科です。脊椎脊髄病は病態によって自然経過や治療法も様々ですが、いずれも重症化すると日常生活動作が著しく低下し、永続的な障害につながりかねません。今まで弘前大学が取り組んできた、病態解明、新しい治療の開発や周術期合併症予防への取り組みを受け継ぎ、安全、効果的な医療の提供を常に意識しながら勤めていきたいと思ます。



医学部附属病院
病理部
准教授 **加藤 哲子**

4月に赴任しました。これまでずっと山形県で仕事をしてきましたので、青森県での新しい生活を楽しみにしています。山形では蔵王山、月山、鳥海山を遠望していましたが、弘前では岩木山がこんなにも近くにはっきりと見えるのに驚きました。これから弘前大学で仕事をしていくにあたり、いろいろな方々にお世話になることと思ます。どうぞ宜しくお願申し上げます。



被ばく医療総合研究所
助教 **有吉 健太郎**

4月より被ばく医療総合研究所に着任しました有吉健太郎です。専門は放射線生物学で、培養細胞や、実験動物を用いて生体に対する放射線の影響解析を行ってきました。放射線被ばく医療に関する教育・研究の発展と共に、震災からの復興に微力ながら貢献できるように励んでゆきたいと思ます。よろしくお願致します。



「新任教員紹介」



食料科学研究所
所長・教授

嵯峨 直恆

平成26年4月1日付けで本研究所に着任致しました。専門は水産科学・海洋生物学で、これまで有用海藻の発生・生活史や遺伝・育種に関する教育・研究を行ってまいりました。今後は、この新しい研究所において主に津軽海峡文化圏内の海の幸・山の幸を研究対象として、「高度で先端的な基礎研究による学術拠点の形成」、「産学官民の連携による地域振興」、「北日本地域農林水産物の国際化」を目指します。



食料科学研究所

教授 中井 雄治

平成26年3月1日に食料科学研究所に着任しました中井雄治です。これまでの専門は、動物の体が、摂取した食物に対してどのように応答するか、について遺伝子発現を網羅的に解析することで明らかにする研究でした。今後は、青森県の豊富な農林水産物を材料に、食べると体により新たな機能性成分を探索する傍ら、「美味しく食べて健康になる食生活」を、身をもって追求したいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



食料科学研究所

准教授 福田 覚

函館から津軽海峡を渡り、平成26年4月より、青森キャンパスの食料科学研究所に着任いたしました。函館では、おにぎりでおなじみのノリを室内で飼うための培養容器やノリ遺伝子の解析に関する研究開発、産学官連携による水産・海洋都市はこだての地域振興に従事してきました。青森の豊富な食を学び、特に水産資源の保全と活用に関する研究ならびに地域振興に取り組みたいと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。追伸、「はこだて国際科学祭」にも参画していました。

http://www.sciencefestival.jp/support/interview_fukuda_01.html

または、URLの代わりにQRコードで



食料科学研究所

准教授 永長 一茂

4月より食料科学研究所に着任しました^{ながおさ}永長一茂です。これまでには細胞^{どんしよく}貪食と呼ばれる現象を通して、癌、免疫、個体発生などを幅広く研究してきました。これからは「食」に関する幅広い研究を行います。

あまり知られていないが実はすばらしい／珍しい／面白い／青森県産農水産物や食品などがありましたら、是非教えてください。機能性や付加価値を見出し、地域活性化に役立てます。



国際教育センター
講師

サンドウ・ロクサナ

平成26年4月1日付けで着任いたしました、サンドウ・ロクサナと申します。ルーマニアから第二の故郷である東北地方に戻りました。平成17年から今年3月まで東北大学大学院国際文化研究科、言語教育体系論講座に在籍しておりまして、語用論という分野で研究活動をしておりました。弘前大学では英語科目を担当しており、外国人と円滑にコミュニケーションをとるためどのような振る舞いをするべきか、どのような表現を使用するべきか、ということを疑問に思う方、遠慮なく声をかけてください。どうぞよろしくお願いいたします。

グローバル人材育成の教育プログラム

HIROSAKI はやぶさカレッジの公募を開始します

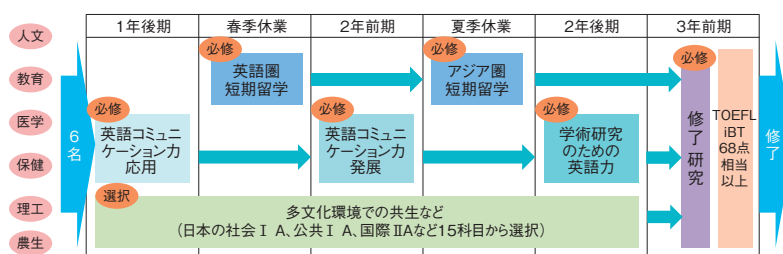
● HIROSAKI はやぶさカレッジとは？

皆さんは、「HIROSAKI はやぶさカレッジ」を知っていますか？
「HIROSAKI はやぶさカレッジ」は、本学の学部1・2年生を対象に、国際化が進む社会で活躍できる力を育成するための教育プログラムであり、その特徴は以下のとおりです。

1. 大学の支援による英語圏とアジア圏への短期留学
英語圏（ニュージーランド）とアジア圏（中国、韓国など）への短期留学を行います。その渡航費と授業料は大学が負担します。
2. 仕事や研究に必要な英語力の向上
日常生活に必要な英語力から、学術研究に必要な英語力の基礎を育成します。
3. 留学生とともに学ぶ授業
選択科目の多くは留学生も履修していますので、交流を深めてください。また、選択科目の多くは日本語と英語を併用しています。
4. 英語による修了研究
学修の成果の集大成を「修了研究」としてまとめ、英語による発表を行います。
5. 修了証書を授与
修了生には修了証書を授与します。是非、就職活動等に活用してください。

● HIROSAKI はやぶさカレッジの流れ

「HIROSAKI はやぶさカレッジ」は2年間の教育プログラムであり、その概要は以下のとおりです。



「HIROSAKI はやぶさカレッジ」の願期間、平成26年7月1日（火）～8月4日（月）です。「HIROSAKI はやぶさカレッジ」に関する相談はいつでも受け付けています。興味のある方は以下にご連絡ください。

【相談窓口】総合教育棟2階 国際教育センター事務室

HIROSAKI はやぶさカレッジでのニュージーランド留学体験記

私は、2014年3月の一か月間ニュージーランドのオークランド工科大学のインターナショナルハウス（AUTih）に短期留学しました。オークランドはニュージーランドの中でも東京のようなシティで、AUTihはその中にあり、毎日とても賑やかな様子でした。授業スタイルは日本のような受け身授業でなく、積極的に参加させるとも活気のある授業でした。放課後や週末はオークランドシティへショッピングに出かけたり、バスを使ってビーチへ行ったりとできる限り観光してきました。中でも3週間目の週末に行ったロトルアが最も心に残っています。火山地帯でとても美しい静かな町でした。留学を通してニュージーランドの多文化を受け入れ共存しているという国の柔軟性がとても気に入りました。やはり外国で生活することは簡単ではないですが、毎日新しい経験が来た貴重な一か月間でした。



13M2152
対馬 侘奈

弘前大学学生ボランティア活動助成団体採択書交付式を実施



学内外でボランティア活動を実施している本学課外活動団体への活動助成費採択書交付式を、6月25日(水)事務局2階特別会議室で行いました。

交付式では、学長から今年度申請のあった9団体の各代表者1人ひとりに、活動助成費採択書が手渡されました。

佐藤学長から、「今皆さんが行っているそれぞれのボランティア活動は、将来社会で生活していく上で、間違いなく役に立つものである。このような活動ができることへの感謝の気持ちを忘れないように、今後もますます元気に活躍してください。」と学生の今後の活動に対する期待を祈念する言葉が贈られました。

交付式に続いて懇談会が行われ、各団体代表者から、普段から困っていることや大学に応援して欲しいことなどを中心に、忌憚のない意見交換が行われ、今後の学生ボランティア活動支援体制の充実を図るためのヒントを得ることができました。

団 体 名	申請代表者名
児童文化研究部KIDS	坂 元 朋 美 (人文学部)
僻地教育研究会	花 田 麻 木 (教育学部)
さくらボランティア	三 浦 高 弘 (教育学部)
ひまわりサークル	前 村 奈 緒 美 (医学部保健学科)
SaBoTen	八 木 竜 也 (農学生命科学部)
環境サークルわどわ	一 戸 雄 斗 (農学生命科学部)
teens & law	小野田 巧 (教育学部)
アダプテッドスポーツサークル葵～so～	寺 嶋 あ さ 美 (教育学部)
キャリアサポート研究会	苫米地 結 子 (教育学部)

弘前暮らしは長くなったが、今年ほど足繁く桜祭りに通った年はなかった。弘前城の石垣修理のために内濠が埋められ、水面に映る天守の姿を再び目にするのは10年程先というためであった。ある日外濠を巡っていると、大きな赤りんごが花筏の中にぽっかりと浮かんでいた。いかにも弘前らしい光景であったが、なぜりんごが浮いていたのか謎であった。

さて、学園だよりの新年度第1号は恒例の新入生特集である。新入生が弘前や

編 集 後 記



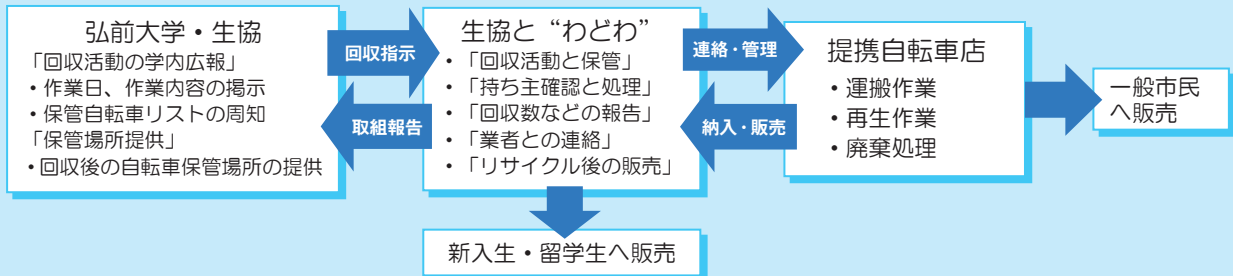
大学にどのような印象を持ち、どのような夢を描いているかを読むのは楽しい。

また、在学生からの一言には、大学生活を通しての成長が読み取れる。ところが、私の周りの学生は学園だよりを知らないと言う。これは相当にもったいない話である。読んでみれば、私がりんごを目にした時のような驚きや、入学時の瑞々しい気持ちを思い出すことができるのに。編集担当者として新米ではあるが、どうしたら学園だよりを手に取ってもらえるかも考えてみたい。(はいば)

弘大生協は学内放置自転車のリサイクル活動に取り組んでいます

今年も弘前大学より委託を受け、学内に放置された自転車の回収、リサイクル、販売を弘前大学生協が実施しました。弘前大学生協では、学生委員会と環境サークル「わどわ」の学生が中心となり、KES推進委員会活動の一環として大学の協力を得ながらリサイクル活動に取り組んでいます。

【構内放置自転車 回収から再利用までのフロー】



昨年回収をしてリサイクルした自転車は、今年4月6日（日）に開催した「フレッシュフェスタ」にて販売を行いました。自転車購入するために、朝からたくさんの来場があり183台を販売しました。また今後、弘大生協とわどわで協力し、放置自転車の整理・回収を行っていく予定です。

学生総合共済 給付事例

弘前大学生協では、毎月の学生総合共済給付事例をHorest前に掲示しています。

けがの事例

■理工学部2年 自転車事故

自転車に乗っていて車道と歩道の境界にある段差に突っ込んで転倒した。左ひじ、左ひざの裂傷。左薬指関節脱臼骨折。

通院18日 手術1回 固定算定日数30日

給付金額146,000円

*固定具は2日で通院日額2,000円の保障

病気の事例

■人文学部2年 急性胃腸炎

自宅アパートで寝ていた時、急に腹痛になった。

原因はよくわからないがきちんとした食事を取っていなかったことが今回の病気につながったのではないかなと思う。

入院3日 給付金額30,000円

【たすけあいアンケートから】

突然の病気で大きな出費になり、経済的にかなりの負担になったので共済に加入していて本当によかったです。たすけあうことのすばらしさを実感しました。

お問い合わせ先：0172-37-6480
(弘前大学生協 たびshop)



【お願い】 生協内製弁当の容器回収にご協力ください

弘前大学生協では弁当容器のリサイクルに取り組んでいます。弘大生協の店舗で販売している内製弁当（丼、幕の内）の容器は、販売の際にデポジット容器代として10円をお預かりしています。**容器を各店レジに持参すると10円が返却されます。**ごみによる環境負荷を少しでも減らすため、容器の回収にご協力ください。

生協内製の「幕の内弁当」の容器も、デポジット対象です。



食後の弁当容器



容器のシールをはがす



できあがり！
お店に持っていきよう！



HIROSAKI
UNIVERSITY

弘前大学 学園だより Vol.181

2014年6月発行

学園だよりに関するご意見がございましたら、
下記のアドレスまでお寄せ願います。

e-mail: jm3113@cc.hirosaki-u.ac.jp
弘前大学学務部学生課

国立大学法人 弘前大学「学園だより」編集委員会

委員長	黄 孝春	(教育委員会)
委員	楊 天曦	(人文学部)
	塚本 悦雄	(教育学部)
	松谷 秀哉	(医学研究科)
	高見 彰淑	(保健学研究科)
	小菅 正裕	(理工学研究科)
	栗田 大輔	(農学生命科学部)
	澤田 祐子	(学生課)
	粕谷 常好	(学生課)
印刷	コロニー印刷	